

No.	語句	読み	用例
1	愛想が尽きる／愛想を尽かす	あいそ(う)がつきる	失敗ばかりする彼女に、ほとんど愛想が尽きた。
2	間に立つ	あいだにたつ	警察官が当事者たちの間に立って話を進めた。
3	相槌を打つ	あいづちをうつ	大げさに相づちを打っているが、内容がわかっているかは疑わしい。
4	証が立つ／(身の)証を立てる	あかしがたつ	今さら死んでも身の証を立てることはない。
5	飽きが来る	あきがくる	いつも同じようなストーリーなので、すぐに飽きが来る。
6	悪態をつく	あくたいをつく	林さんは、何かにつけて悪態をついてばかりいる。
7	胡座をかく	あぐらをかく	正座が苦しいなら、あぐらをかいても構いませんよ。
8	明けても暮れても	あけてもくれても	あの頃は、明けても暮れても仕事仕事の日々だった。
9	揚げ足を取る	あげあしをとる	人の揚げ足を取るようなことばかり言わない方がいい。
10	挙句の果て(に)	あげくのはてに	授業中に携帯電話を使い、挙句の果てに化粧までしている。
11	足が出る	あしが出る	日本に旅行したが、円高のおかげで大きく足が出てしまった。
12	足がない	あしがない	足がないので、一緒に乗せてもらえるとありがたい。
13	足が早い	あしはやい	サバは足が早い魚なので、生では食べない方がいい。
14	足が向く／足を向ける	あしがむく	会社を出ると、いつもの居酒屋に足が向く。
15	足取りが重い	あしどりがおもい	妻のことを考えると、家に帰る足取りが重くなる。
16	足下を見る	あしもとをみる	いくら商売でも、消費者の足下を見るような売り方は許せない。
17	足を洗う	あしをあらう	いい加減、この世界からも足を洗うつもりだ。
18	足を延ばす	あしをのばす	博多に行ったついでに、宮崎まで足を延ばした。
19	足を運ぶ	あしをはこぶ	料理も雰囲気も良く、何度も足を運びたくなるお店だ。
20	足を引っ張る	あしをひっぱる	エースの不調が、チームの足を引っ張っている。
21	味も素っ気もない	あじもそっけもない	本人は実用的だというけれど、単に味も素っ気もない部屋だ。
22	味をしめる	あじをしめる	たまたま優勝したのに味をしめて、ほかの大会にも出場した。
23	当たって砕けろ／当って砕けよ	あたってください	若いときは、当って砕けろの覚悟でやればいい。
24	頭が切れる	あたまがきれる	今度の部下は、なかなか頭が切れるヤツだ。
25	頭が下がる	あたまがさがる	ベテラン選手の頑張りには、頭が下がる思いだ。
26	頭に入れる	あたまにいれる	このことも常識として頭に入れておかなければならない。
27	頭に来る	あたまにくる	彼の態度はいつもながら頭に来る。
28	頭に血が上る	あたまにちがのぼる	せっかちですぐ頭に血が上る性格だ。
29	頭を痛める	あたまをいためる	仕事をしない次男のことで、いつも頭を痛めている。
30	頭を抱える	あたまをかかえる	このところの円高で、多くの経営者が頭を抱えている。
31	頭を冷やす	あたまをひやす	腹が立つのはわかるが、少しは頭を冷やした方がいい。
32	頭を丸める	あたまをまるめる	敗戦の責任をとって、頭を丸めることにした。

No.	語句	読み	用例
33	当らず障らず	あたらずさわらず	誰に気をつかったのか、最後まで当らず障らずの発言だった。
34	呆気にとられる	あつけにとられる	あまりに急な出来事に、誰もが呆気にとられていた。
35	当てが外れる	あてがはずれる	値上がりすると思っていたが、すっかり当てが外れてしまった。
36	当てずっぽう	あてずっぽう	四択なら当てずっぽうで答えても25点はとれますね。
37	当てにする	あてにする	当てにしていた銀行からの融資が得られず、苦しい状況にある。
38	当てにならない	あてにならない	彼の約束は、いつも当てにならない。
39	跡形もない	あとかたもない	大津波で町全体が跡形もなく消えてしまった。
40	後先（も）考えず	あとさきもかんがえず	うちの部長は、後先考えずに行動するきらいがある。
41	後へ引けない／後に引けない	あとへひけない	ここまできたら、もう後へ引けない。
42	穴埋めをする	あなうめをする	横領した金で、自分の借金の穴埋めをしていたらしい。
43	穴が開く／穴を開ける	あながあく	彼女が間に合わなければステージに穴が開いてしまうぞ。
44	穴の開くほど	あなのあくほど	穴の開くほど見ましたが、間違いは見つかりませんでした。
45	あの手この手（で）	あのてこのてで	業者はあの手この手で売り込んでくるものだ。
46	脂が乗る	あぶらがのる	この時期のサンマは脂が乗っていてとてもおいしい。
47	油を売る	あぶらをうる	こんなに時間がかかるなんて、いったいどこで油を売っていたんだ。
48	甘い汁を吸う／旨い汁を吸う	あまいしるをすう	政治家や役人は、いつの時代も甘い汁を吸っている。
49	甘く見る	あまくみる	相手が子どもだと思って甘く見ると、思わぬ結果になりかねない。
50	余すところ	あますところ	今年も余すところあと1ヶ月だ。
51	余すところなく	あますところなく	この作品こそ、当時の技巧を余すところなく伝えている。
52	雨が降ろうが槍が降ろうが	あめがふろうがやりがふろうが	雨が降ろうが槍が降ろうが働くのが労働者というものだ。
53	粗を採す／粗探し（をする）	あらをさがす	他人の論文の粗探しをするのも研究者の仕事のひとつです。
54	あらん限りの	あらんかぎりの	全員があらん限りの力を出したが、大きな岩は動かなかった。
55	在り来たり	ありきたり	デザインといい配色といい、はつきり言って在り来たりだ。
56	あろうことか	あろうことか	あろうことか、当局の横暴に抗議した男性が逮捕されたという。
57	合わす顔がない／合わせ顔がない	あわすかおがない	ここで良い結果を出さなければ、先輩たちに合わす顔がない。
58	あわよくば	あわよくば	あわよくば大金が手に入るかもしれない。
59	哀れみをかける	あわれみをかける	被害者に哀れみをかけるだけでは、問題の解決にはならない。
60	泡を食う	あわをくう	警報ベルが鳴ると、強盗は泡を食って逃げていった。
61	暗礁に乗り上げる	あんしょうのにのりあげる	資金が確保できず、計画は暗礁に乗り上げた。
62	言い掛かり（をつける）	いいがかりをつける	我が社の商品に、変な言い掛かりをつけないでいただきたい。
63	いい気なものだ	いいきなものだ	奥さんが働いているのに、毎日家で寝ているとはいい気なものだ。
64	いい薬（になる）	いいくすりになる	今回の敗北も、チームにはいい薬になっただろう。

No.	語句	読み	用例
65	いい線 (を) 行っている	いいせんをいっている	前のは今ひとつだが、新しい作品の方は割といい線を行っている。
66	言いなり (になる)	いいなりになる	彼女の言いなりにばかりなっているとは情けない話だ。
67	言うなれば	いうなれば	言うなれば、貧乏こそ人生で最良の経験と言うべきだろう。
68	言うに言われず	いうにいわれず	言うに言われず、今まで黙っていました。許してください。
69	言うに事 (を) 欠いて	いうにことをかいて	言うに事欠いて、本人の前であんなことを言うなんてひどいよ。
70	言うまでもない	いうまでもない	努力こそが成功への近道であることは言うまでもない。
71	怒りを買う	いかりをかう	軽率な行動の結果、メンバー全員の怒りを買うことになった。
72	行き当たりばったり	いきあたりばったり	行き当たりばったりの旅行もたまには悪くないと思う。
73	勢いあまって	いきおいあまって	運動会のリレーで、勢いあまって1回転してしまった。
74	息が合う	いきがあう	初めてのコンビにもかかわらず、なかなか息が合っている。
75	息が切れる	いきがぎれる	久しぶりに運動をすると、息が切れる。
76	息が詰まる	いきがつまる	こんな狭い部屋にばかりいたのでは息が詰まるでしょう。
77	息が長い	いきながい	15才でデビューしてから、息が長い活躍が続けている。
78	息の根を止める	いきのねをとめる	確実に息の根を止めるには、一度刺したくらいでは不十分だ。
79	息をのむ	いきをのむ	目の前の絵画の素晴らしさに、誰もが息を飲んだ。
80	息を引き取る	いきをひきとる	病気で入院していた会長が、今朝息を引き取ったそうだ。
81	息を吹き返す	いきをふきかえす	中盤からは、息を吹き返した王者が反撃に出た。
82	幾分なりとも	いくぶんなりとも	いくぶんなりとも助けになればうれしいことです。
83	幾らも～ない	いくらも～ない	ここからなら、もういくらもかからないで着くでしょう。
84	異彩を放つ	いさいをはなつ	彼女の作品は、数ある展示作の中でも異彩を放っていた。
85	潔しとしない	いさぎよしとしない	職にとどまることを潔しとせず、辞任を表明した。
86	些かも～ない	いささかも～ない	火事と聞いても、いささかも慌てた様子がない。
87	いざ～てみると	いざ～てみると	簡単そうだが、いざやってみると意外に難しかった。
88	石に嘯りついて (で) も	いしにかじりついてでも	この仕事は石にかじりついてでも成功させなければならない。
89	意地を張る	いじをはる	意地を張ってばかりいても、いいことは何もない。
90	痛い目に遭う／痛い目を見る	いたいめにあう	一度痛い目に会わなければわからないのだろう。
91	致し方ない	いたしかたない	彼をもってしてもダメなのなら、致し方ない。
92	痛いところをつかれる／痛いところをつく	いたところをつかれる	娘に説教したら、逆に痛いところをつかれた。
93	至れり尽くせり	いたれりつくせり	至れり尽くせりのもてなしを受けた。
94	一丸となる	いちがんとする	チームが一丸となって優勝を目指す。
95	一堂に会する	いちどうにかいする	世界中の有名シェフが一堂に会して腕を競った。
96	一枚噛む	いちまいかむ	この男は、先の事件にも一枚噛んでいるらしい。

No.	語句	読み	用例
97	一理ある	いちりある	彼女の言うことも、たまには一理ある。
98	一巻の終わり	いつかんのおわり	崖の上から落ちたのでは一巻の終わりだ。
99	一笑に付す	いっしょうにふす	あの時、あなたはわれわれの忠告を一笑に付したでしょう。
100	一矢（を）報いる	いっしをむくいる	4連敗のあと1勝を返して、ようやく一矢を報いた。
101	一席設ける	いっせきもうける	お祝いを兼ねて一席設けましょう。
102	一石を投じる	いっせきをとうじる	彼女の行動は、社会にも一石を投じた。
103	いっそのこと	いっそのこと	いっそのこと消費税を100%くらいにしたらどうだろうか。
104	一杯食わせる／一杯食わす	いっぱいくわせる	被害者が協力し、詐欺グループに一杯食わせるという映画です。
105	一步譲って	いっぽゆずって	一步譲ってそれが正しいにしても、大勢に影響はない。
106	居ても立っても居られない	いてもたってもいられない	試験の結果が心配で、居ても立ってもいられなかった。
107	意に介さず／意に介さない／意に介しない	いにかいさず	両親の忠告も意に介さず、ゲームばかりしている。
108	命からがら	いのちからがら	強風の中、崩れる建物から命からがら逃げだした。
109	意表をつく	いひょうをつく	意表をついた作戦で見事に勝利をものにした。
110	今や遅しと（待つ）	いまやおそしとまつ	大勢の支持者が、当選の通知を今や遅しと待っている。
111	今を時めく	いまをとぎめく	今をときめくアイドルだけあって、スケジュールは秒刻みだ。
112	いやがうえに（も）	いやがうえにも	新しい指導者を得て、いやがうえにも人びとの期待が高まっている。
113	嫌気がさす	いやげがさす	無能な上司のもとで働くことに嫌気がさしたらしい。
114	否でも応でも	いやでもおうでも	学生ならば否でも応でも試験を受けなければならない。
115	居留守を使う	いるすをつかう	こう何度も続けては、居留守を使っていることがすぐわかる。
116	入れ替わり立ち代わり	いれかわりたちかわり	事件の取材で、マスコミが入れ替わり立ち替わりやってきた。
117	色をつける	いろをつける	今月はよく働いたから、バイト代に色をつけておいたよ。
118	言わずと知れた	いわずとしれた	清水寺と言えば、言わずと知れた京都の名所である。
119	異を唱える	いととなえる	それまで通説と思われてきた見解に異を唱えるものが現れた。
120	引導を渡す	いんどうをわたす	今こそ年老いた経営陣に引導をわたすときだ。
121	因縁をつける	いんねんをつける	柄の悪い男が、店員に値段が高いだ何だと因縁をつけている。
122	後ろ指を指される	うしろゆびをさされる	人に後ろ指を指されるようなことはしていない。
123	嘘をつけ	うそをつけ	ウソをつけ。月曜日は家にいなかったじゃないか。
124	うだつが上がらない	うだつがあがらない	彼はと言うと、相変わらずうだつが上がらない様子だ。
125	現を抜かす	うつつをぬかす	ゲームにばかり現を抜かしていると、現実を見失うよ。
126	打てば響く	うてばひびく	打てば響くように動いてくれる事務員がほしい。
127	腕が立つ	うでがたつ	普段は酒飲みだが、いざと言うときにはなかなか腕が立つ。
128	腕を振るう	うでをふるう	有名シェフが腕を振るう店として有名だ。

No.	語句	読み	用例
129	腕を磨く	うでをみがく	フランスに修業に行って、腕を磨いた。
130	鵜呑みにする	うのみにする	被害者の証言だからといって鵜呑みにはできない。
131	有無を言わせず／有無を言わさず	うむをいわせず	有無を言わせず、全員を同じ保険に加盟させる。
132	埋め合わせ (をする)	うめあわせをする	明日は仕事で無理だ。この埋め合わせはきつとするから許してくれ。
133	裏を返せば	うらをかえせば	強気な発言は、裏を返せば不安があることの証拠だとも言える。
134	裏をかく	うらをかく	敵の裏をかい、狭い方から攻撃する。
135	売りに出す	うりにだす	借金が返せず、家まで売りに出すことになった。
136	上前をはねる	うわまえをはねる	悪徳な主人が、子供たちの稼ぎの上前をはねていた。
137	うんともすんとも (言わない)	うんともすんともいわない	何度聞いいただしても、うんともすんともいわない。
138	運を天に任せる	うんをてんにまかせる	悩んでも仕方がない。ここは、運を天に任せてみよう。
139	えもいわれぬ	えもいわれぬ	熟したフルーツから、えもいわれぬ香りが立っている。
140	襟を正す	えりをただす	マスコミも、政治家を批判する前にまずは自らの襟を正すべきだ。
141	縁起を担ぐ	えんぎをかつぐ	縁起をかついで、試合のときにはオレンジ色のパンツをはいている。
142	エンジンがかかる	エンジンがかかる	シーズンの終盤になって、やっとエンジンがかかってきた。
143	エンジンを吹かす／アクセルを吹かす	エンジンをふかす	船のエンジンを吹かして、針路を変更する。
144	縁もゆかりもない	えんもゆかりもない	いくら有能でも、地元縁もゆかりもない人物では支持しがたい。
145	縁を切る	えんをきる	あんな会社とは、早く縁を切った方がいい。
146	お預けを食う	おあずけをくう	食事を目の前に、もう半時間もお預けを食っている。
147	(お) 誂え向きの	おあつらえむきの	政権に批判的なマスコミには、お誂え向きの話題だろう。
148	老い先短い	おいさきみじかい	老い先短い身なので、多少のわがままは許してください。
149	(お) 伺いを立てる	おうかがいをたてる	先ずは手紙などでお伺いを立ててみるべきだ。
150	多かれ少なかれ	おおかれすくなかれ	誰でも多かれ少なかれ人に迷惑をかけながら生きているものだ。
151	大手を振って (歩く)	おおでをふってあるく	犯罪者が大手を振って歩いているのが許せなかったのです。
152	大盤振舞い	おおばんぶるまい	無料参加者にもフルコースを出すという大盤振る舞いだった。
153	大目玉を食らう	おおめだまをくらう	仕事でミスをして、上司に大目玉を食らった。
154	大目に見る	おおめにみる	この際、多少のことは大目に見よう。
155	公にする	おおやけにする	記者会見を開いて、事実を公にする。
156	お株を奪う	おかぶをうばう	相手チームのお株を奪う見事な速攻だった。
157	お構いなし (に)	おかまいなしに	酒を飲んで大騒ぎをして、周囲の目などお構いなしだ。
158	お気に召す	おきにめす	京都から取り寄せた西陣織です。お気に召せば良いのですが。
159	おくびにも出さない	おくびにもださない	日頃の苦勞などおくびにも出さずに、明るく振る舞っている。
160	臆病風に吹かれる	おくびょうかぜにふかれる	急に出場辞退なんて、きっと臆病風に吹かれたのだろう。

No.	語句	読み	用例
161	遅れ馳せながら	おくればせながら	行政も遅れればせながら調査に乗り出した。
162	後れを取る	おくれをとる	彼は、技術という点で、周りに大きく遅れを取っている。
163	お言葉に甘えて	おことばにあまえて	では、お言葉に甘えて明日はお休みをいただきます。
164	お下がり	おさがり	子どものころに着ていた服と言え、兄のお下がりばかりだった。
165	おさらば (を)	おさらばをする	あと7ヶ月で、今の仕事ともおさらばできる。
166	押しが強い	おしがつよい	台湾には、日本よりも押しが強い人が多い。
167	押しも押されもせぬ	おしもおされもせぬ	今や押しも押されもせぬ第一人者である。
168	お相伴に与る／ご相伴に与る	おしょうばんにあずかる	社長のお相伴にあずかることとなった。
169	押せ押せになる	おせおせになる	開会が遅れたため、予定が押せ押せになっている。
170	お膳立て (が整う)	おぜんだてがととのう	優勝のお膳立ては整っている。あとは勝つだけだ。
171	遅かれ早かれ	おそかれはやかれ	あの二人なら、遅かれ早かれ別れただろうと思う。
172	遅きに失する	おそきにしつする	政府の対策は、いつも遅きに失する感がある。
173	遅まきながら	おそまきながら	事故のあとで、遅まきながら対策室が設置された。
174	恐れを成す	おそれをなす	巨大な大砲を見た敵軍は、恐れをなして逃げて行った。
175	落ち目 (になる)	おちめになる	落ち目になったときにも応援してくれるのが本当のファンです。
176	お茶を濁す	おちゃをにごす	適当な答えでお茶を濁すつもりはありません。
177	大人気ない	おとなげない	子供相手に本気を出すなんて、なんて大人げないんだ。
178	脅しをかける	おどしをかける	ちょっと脅しを掛ければ逃げていくだろう。
179	お開き (にする)	おひらきにする	もう遅いので、今日はこの辺でお開きにしましょう。
180	尾鰭が付く	おひれがつく	だいたい話に尾ひれがついてた伝わっているようだ。
181	オブラートに包む	オブラートにつつむ	もう少しオブラートに包んだ言い方が出来ないものかね。
182	おべっか (を使う)	おべっかをつかう	おべっかを使って出世したと言われるだけのことはある。無能だ。
183	(お) 目が高い	おめがたかい	お客様、これを選ばれるとはお目が高い。
184	お目に掛かる／お目に掛ける	おめにかかる	一度、専務にお目に掛かりたいのですが。
185	思い (も) 掛けない	おもいもかけない／おもいがけない	遠くフランスから、思いもかけない知らせが飛び込んできた。
186	思いも寄らない	おもいもよらない	一回戦は思いも寄らない結果となった。
187	思いを馳せる	おもいをはせる	都会にいながら、遠く故郷に思いを馳せる。
188	思いを寄せる	おもいをよせる	以前から思いを寄せている男性がいる。
189	重荷を下ろす	おもにをおろす	契約交渉が無事終了し、ようやく重荷を下ろすことが出来た。
190	お安い御用だ	おやすいごようだ	日本語の通訳ぐらいお安い御用だ。
191	親の鷹を齧る	おやのすねをかじる	40才にもなって、まだ親のすねをかじっている。
192	及びもつかない	およびもつかない	あれは名人の技だ。私などでは及びもつかない。

No.	語句	読み	用例
193	折り入って	おりいって	折り入ってご相談したいことがあるのですが。
194	折に触れて	おりにふれて	折に触れて、昔の友人の絵手紙などを送っている。
195	折り目正しい	おりめたしい	彼女の父親は、折り目正しい人物だ。
196	終わりを告げる	おわりをつげる	経済政策で対立し、両党の友好関係も終わりを告げた。
197	尾を引く	おをひく	昨日の酒が尾を引いて、どうにも気分が悪い。
198	恩に着せる	おんにきせる	恩に着せるところがあるので、彼女にものは頼みたくない。
199	貝になる	かいになる	質問をすると貝になる学生の何と多いことか。
200	垣間見る	かいまみる	今回の取材では、勝負の世界を垣間みた気がした。
201	顔が利く	かおがきく	うちの主任はいろいろなところに顔が利く。
202	顔が広い	かおがひろい	長く政治の世界にいただけあって、とても顔が広い。
203	顔に書いてある	かおにかいてある	あのコが好きですって顔に書いてあるよ。
204	(顔に) 泥を塗る	かおにどろをぬる	先輩の顔に泥を塗るようなことはできない。
205	顔向け(が) できない	かおむけができない	交渉を成功させなければ、社員に顔向けが出来ない。
206	顔を合わせる	かおをあわせる	彼らとは毎日のように顔を合わせている。
207	顔を売る／顔が売れる	かおをうる	先ずは、どんな集会にも出掛けて行って顔を売ることです。
208	顔を揃える	かおをそろえる	シンポジウムには、主要政党の代表が顔を揃えた。
209	顔を出す	かおをだす	宴会には、あとで少しだけ顔を出すよ。
210	顔を潰す	かおをつぶす	その場で言い返しては、上司の顔を潰すことになる。
211	顔を見せる	かおをみせる	普段は来ないメンバーが、そろって集会に顔を見せた。
212	書き入れ時	かきいれどき	10月はわが社にとっての書き入れ時だ。
213	掛け替えのない	かけがえのない	かけがえのない地球をみんなの力で守っていきましょう。
214	影が薄い	かげがうすい	実力者ではあるが、地味なので影が薄い。
215	影を落とす	かげをおとす	円高が企業の決算にも影を落としている。
216	影を潜める	かげをひそめる	肩を壊してから、豪速球は影を潜めてしまった。
217	嵩に懸かって	かさにかかって	敵軍がかさにかかって攻め寄せてきた。
218	風当たりが強い	かざあたりがつよい	シングルマザーには、いまだ世間の風当たりが強い。
219	風穴を開ける	かざあなをあける	状況に風穴を開けるような新しい理論が期待される。
220	風上に(も) 置けない	かざかみにもおけない	命より金儲けを優先するなど、医師の風上にも置けない。
221	貸しを作る	かしをつくる	今回の件で、あなたには貸しを作ることになりましたね。
222	舵を取る	かじをとる	政党の舵を取るには、カリスマ性も必要だ。
223	風の便り(に聞く)	かぜのたよりにきく	彼女が結婚したと、風の便りに聞いた。
224	数えるほど(しか〜ない)	かぞえるほどしか〜ない	彼女がミスをしなかったことは、数えるほどしかない。

No.	語句	読み	用例
225	肩入れ (を) する	かたいれをする	今さらどちらか一方に肩入れすると、状況が複雑になる。
226	片が付く	かたがつく	残っていた仕事も、深夜になってやっと片がついた。
227	敵を討つ／敵をとる	かたきをうつ	親の敵を討つために30年以上も諸国をめぐったそう。
228	肩透かしを食う	かたすかしをくう	本人のドタキャンで、多くのファンが肩すかしを食った。
229	固唾を飲む	かたずをのむ	多くの市民が、開票の結果を固唾を飲んで見守っている。
230	形ばかりの	かたちばかりの	形ばかりの謝罪では、問題の解決にはなりません。
231	片っ端から	かたっぱしから	図書館にある日本語の本を片っ端から読んでいった。
232	片手落ち	かたておち	消費者の利益も考えなければ片手落ちというものです。
233	片手間に	かたてまに	片手間にやってできる仕事ではない。
234	型に嵌る	かたにはまる	型にはまると異様な強さを発揮するタイプだ。
235	肩の荷が下りる	かたののがおりる	任期が無事に終了し、肩の荷が下りた気分だ。
236	肩身が狭い (思いをする)	かたみがせまいおもいをする	会社でも家でも肩身の狭い思いをしている。
237	片や～ (片や～)	かたや～かたや～	もとは同期だったものが、今では片や社長で片や平社員だ。
238	肩を落とす	かたをおとす	思わぬ連敗に選手たちは肩を落とした。
239	肩を並べる	かたをならべる	5回目の優勝を果たし、過去の名人たちと肩を並べた。
240	肩を持つ	かたをもつ	両親はいつも弟の肩ばかり持っている。
241	かちんと来る	かちんとくる	遠慮のない物言いにいささかカチンと来た。
242	勝手が違う	かつてがちがう	土のコートでは、芝のコートとは勝手が違う。
243	角が立つ	かどがたつ	角が立つような言い方はやめなさい。もっと穏やかに言いなさい。
244	角が取れる	かどがとれる	昔はすぐ怒っていたが、年をとってだいぶ角がとれてきたようだ。
245	悲しみに沈む	かなしみにしずむ	大スターの死に、国中が哀しみに沈んでいる。
246	形なしだ	かなたしだ	素人がここまでやっては、プロも形なしというものだ。
247	金に飽かして	かねにあかして	金に飽かして世界中の名画を買いあさっている。
248	金に糸目を付けぬ／金に糸目はつけない	かねにいとめをつけぬ	金に糸目はつけないから、特大の黒アワビを持ってきてくれ。
249	金を食う	かねをくう	釣りというのは意外と金を食う趣味だ。
250	壁に突き当たる	かべにつきあたる	新エネルギーの研究は大きな壁に突き当たった。
251	雷を落とす	かみなりをおとす	最近、出来の悪い部下に雷を落とす日々だ。
252	可もなく不可もなし	かもなくふかもなし	彼女の歌唱力は、可もなく不可もなしといったところだ。
253	蚊帳の外 (に置かれる)	かやのそとにおかれる	選抜メンバーも外され、すっかり蚊帳の外に置かれている。
254	体を壊す	からだをこわす	お酒ばかり飲んでしていると、いつか体を壊しますよ。
255	体を張る	からだをはる	体を張った演技で、評論家たちから高い評価を受けた。
256	借りを作る	かりをつくる	あなたには大きな借りを作ってしまいましたね。

No.	語句	読み	用例
257	感極まる	かんきわまる	金メダルが決まると、感極まって涙を流した。
258	閑古鳥が鳴く	かんこどりがなく	大型店の出店で商店街は閑古鳥が鳴いている。
259	関心を払う	かんしんをはらう	親は子供のすべてに関心を払わなければならない。
260	勘定に入れる	かんじょうにいれる	不良品の発生も勘定に入れると、この事業は赤字になるだろう。
261	嚙んで含めるように	かんでふくめるように	嚙んで含めるように説明したが理解できなかったようだ。
262	間髪（を）入れず	かんはつをいれず	優秀な工員は、作業が終わると、間髪を入れず次の作業に移る。
263	ガソリンを食う	ガソリンをくう	アメリカの車は、どれもガソリンを食う。
264	我を張る／我を通す	がをはる／がをとおす	集団生活では、一人で我を張ることは出来ない。
265	気合いが入る／気合を入れる	きあいがはいる	久しぶりの実戦とあって、だいぶ気合いが入っている。
266	気が合う	きがあう	気があう仲間たちでランチパーティーを開く。
267	気が重い	きがおもい	仕事のことを考えると、気が重くなる。
268	気が利く／気がつく	きがきく	台湾人にしては気が利く方だと思う。
269	気が気でない	きがきでない	結果がどうなったのか、気が気でない様子だ。
270	気が知れない	きがしれない	彼女はとても親切な人だ。彼女を悪く言う人の気が知れない。
271	気が進まない	きがすすまない	何となく気が進まない仕事というものもある。
272	気が済む／気が済まない	きがすむ	一回くらい殴らないと、こっちの気が済まない。
273	気が立つ	きがたつ	気が立っているから、今は話し掛けられない方がいい。
274	気が散る	きがちる	気が散るから、少し静かにしてくれないか。
275	気が遠くなる	きがとおくなる	1億年後の予想なんて、気が遠くなるような話だね。
276	気が抜ける	きがぬける	テストが終わって、すっかり気が抜けてしまったようだ。
277	気が乗らない	きがのらない	天気が良くない日は、どうしても気が乗らない。
278	気が早い	きがはやい	子供が生まれる前から服を買いに行くなんて、気が早い話だ。
279	気が張る／気を張る	きがはる	仕事をしているときは、気が張っているので痛くありません。
280	気が引ける	きがひける	無料だからといって、何度も利用するのは気が引けます。
281	気が狂れる	きがふれる	会議中に奇声を発するなんて、気がふれてしまったのだろうか。
282	気が紛れる	きがまぎれる	つらいときでも、仕事をしているといくらも気が紛れます。
283	気が滅入る	きがめいる	こんなにじめじめした天気では、こっちの気も滅入ってしまう。
284	気が揉める／気を揉む	きがもめる	通知がなかなか届かないようで、ずいぶん気を揉んでいる。
285	聞く耳持たぬ／聞く耳を持たない	きくみもたぬ	彼女は、私たちの意見には聞く耳を持たない。
286	機嫌をとる	きげんをとる	社長の機嫌をとったから出世できるというものではない。
287	机上の空論	きじょうのくうろん	実際に確かめられないのなら、机上の空論に過ぎない。
288	機先を制す（る）	きせんをせいする	敵の機先を制することこそ、勝利への近道だ。

No.	語句	読み	用例
289	～切っての	きっての	何でも若いころは町内きっての美人だったのだそうだ。
290	気風が良い／気前がいい	きっぷがよい／きまえがよい	こんなときにボーナスなんて、ずいぶん気前がいい会社だね。
291	機転が利く／機転を利かせる	きてんがきく	店員が機転を利かせて対応したので、犯人は何もとらずに逃げた。
292	軌道に乗る	きどうにのる	新製品の生産が、やっと軌道に乗った。
293	気に掛かる／気に掛ける	きにかかる	いまだに彼女のことが気にかかる。
294	気に食わない	きにくわない	気に食わないことがあるなら言ってみろ。
295	気に障る	きにさわる	何を怒ってるんだい。何か気に障ることでも言ったかな。
296	気に留める	きにとめる	今思えば重要な指摘だったが、当時は誰も気に留めなかった。
297	気に病む	きにやむ	本人の問題ですから、あなたが気に病むものではありませんよ。
298	着の身着のまま	きのみきのまま	深夜だったため、誰もが着の身着のまま逃げ出した。
299	気分が乗る	きぶんがのる	うちの会長は気分が乗って来ると歌を歌い出すくせがある。
300	決まりが悪い	きまりがわるい	一人だけ服装が違って決まりが悪い思いをしたことはない？
301	決まりきった／決まりきっている	きまりきった	決まりきった結論を偉そうに述べても意味がない。
302	木目が細かい	きめがこまかい	上等な牛肉ほど脂のきめが細かいものだ。
303	肝が据わる	きもがすわる	地震にも驚かないなんて、肝が据わった人だ。
304	肝に銘じる／肝に銘ずる	きもにめいじる	先生の言葉を肝に銘じて頑張ります。
305	肝を冷やす	きもをひやす	車とぶつかりそうになって、大いに肝を冷やした。
306	脚光を浴びる	きゃっこうをあびる	小さな会社が開発した技術が、世界中から脚光を浴びている。
307	気休め（を言う）	きやすめをいう	いつか治るかもなんて、そんな気休めを言うのはよしてくれ。
308	切りがない	きりがない	細かいことまで言い出したら、それこそ切りがないよ。
309	帰路につく	きろにつく	大統領は、翌日には専用機で帰路についた。
310	気を失う	きをうしなう	奥歯の治療は、気を失うほどの痛みだった。
311	気を落とす	きをおとす	世界が終わるわけじゃないし、そう気を落とすなよ。
312	気を配る	きをくばる	細かいところにまで気を配ることが大切だ。
313	気を遣う	きをつかう	お礼の品なんて、そんなに気をつかわないでください。
314	気をとられる	きをとられる	助手席との会話に気をとられて前方が不注意になったようだ。
315	気を取り直す	きをとりなおす	気を取り直して、もう一度挑戦してみることにした。
316	気を吐く	きをはく	チームが不調の中、彼が一人で気を吐いていた。
317	気を回す	きをまわす	いろいろと気を回して準備をしてくれたようだ。
318	気を持たす／気を持たせる	きをもたす	気を持たせるようなことをするから、あとで恨まれるんだ。
319	気を悪くする	きをわるくする	こんな言い方では、相手が気を悪くするだろう。
320	犠牲を払う	ぎせいをはらう	多大な犠牲を払って完成したトンネルだ。

No.	語句	読み	用例
321	食い入るように	くいいるように	ケースの中の作品を食い入るように見ている人がいる。
322	食い物にする	くいものにする	社会的な弱者を食い物にするような商売をしている。
323	食うや食わず	くうやくわず	職を失ってから、食うや食わずの生活をしていた。
324	釘を刺す	くぎをさす	勝手な行動をしないように釘を刺しておく。
325	草の根を分けて (も捜し出せ)	くさのねをわけてもさがしだせ	ほかに真犯人がいるはずだ。草の根をわけても探し出せ。
326	楔を打ち込む／楔を打つ	くさびをうちこむ	与党連合にくさびを打ち込もうと、様々な政治工作が続いている。
327	苦汁を舐める	くじゅうをなめる	製品が市場に受け入れられず、苦汁をなめる時代が続いた。
328	くだを巻く	くだをまく	彼女の兄ときたら、いつも酒を飲んでくだを巻いている。
329	口裏を合わせる	くちうらをあわせる	警察の取り調べは、みんなで口裏を合わせて乗り切った。
330	口が重い	くちがおもい	事件のことを聞くと、村人の誰もが口が重い。
331	口が堅い／口が軽い	くちがかたい／くちがかるい	あの先生は口が軽いから気をつけなければいけないよ。
332	口が過ぎる	くちがすぎる	いくら何でも、それは口が過ぎるというものでしょう。
333	口が滑る／口を滑らす／口を滑らせる	くちがすべる	口が滑って、うっかり秘密を漏らしてしまった。
334	口が減らない	くちがへらない	いくつになっても口が減らないヤツだな。
335	口が悪い	くちがわるい	私は口が悪いだけで、悪人なのではありません。
336	口車に乗る／口車に乗せる	くちぐるまにのる	犯人の口車に乗って、知らないうちに共犯者になってしまった。
337	口答え (を) する	くちごたえをする	学生の分際で、先生に口答えするとは何事だ。
338	口に合う／お口に合う／口に合わない	くちにあう	アメリカの料理は、美食家の口には合いません。
339	口にする	くちににする	だれもが強い不満を口にする。／口にする物なので安全性が第一だ。
340	口に出す	くちにだす	口に出しては言えないが、この社長には経営能力がないと思う。
341	口火を切る	くちびをきる	まずは野党の議員が批判の口火を切った。
342	口を利く	くちをきく	仕事をとるために、政治家に口を利いてもらう。
343	口を極めて	くちをきわめて	被害者たちは、政府の対応を口を極めて批判した。
344	口を酸っぱくして (言う)	くちをすっぱくしていう	あれだけ口を酸っぱくしていったのに、どうしてわからないのか。
345	口を噤む	くちをつぐむ	証人は、肝心な点になると口を噤んでしまった。
346	口を濁す	くちをにごす	大臣は、具体的な数値については口を濁した。
347	口を挟む	くちをはさむ	本当に、何にでも口を挟むヤツだな。
348	口を開く	くちをひらく	あの人は、口を開くというと人の悪口ばかりだ。
349	口を割る	くちをわる	連日の厳しい取り調べに、ついに口を割った。
350	食って掛かる	くってかかる	運休と聞いて、係員に食って掛かる客もいた。
351	首が飛ぶ	くびがとぶ	仕事をしなければ首が飛ぶのも当然だ。
352	首が回らない	くびがまわらない	借金で首が回らない。

No.	語句	読み	用例
353	首を傾げる	くびをかしげる	誰もが首を傾げる判定だった。
354	首を切る	くびをきる	経営不振で、従業員の首を切るしかなかった。
355	首を縦に振らない	くびをたてにふらない	何度頼んでも首を縦に振らなかった。
356	首を突っ込む	くびをつっこむ	いろんな問題に首を突っ込むのが悪いくせだ。
357	首を長くする	くびをながくする	子供たちが、食事の出来るのを首を長くして待っている。
358	首をひねる	くびをひねる	意外な調査結果に首をひねるしかなかった。
359	比べ物にならない	くらべものにならない	田舎の映画館とは比べ物にならない大きさだ。
360	ぐうの音も出ない	ぐうのねもでない	周到な反論にぐうの音も出なかった。
361	愚にもつかない	ぐにもつかない	この手の議論は、愚にもつかないものばかりだ。
362	ぐるになる	ぐるになる	行政が業者とグルになっているとしか思えない。
363	群を抜く	ぐんをぬく	彼の才能は、群を抜いている。
364	景気をつける	けいきをつける	焼き鳥屋で一杯やって景気をつけよう。
365	けじめをつける	けじめをつける	議員がけじめをつけるのなら、辞職しかないと思われる。
366	桁が違う	けたがちがう	私も仕事はするが、彼の量とは桁が違う。
367	けちをつける／けちがつく	けちをつける	彼女は、何をプレゼントしてもけちをつける。
368	血相を変える	けっそうをかえる	部長が血相を変えて部屋に飛び込んできた。
369	煙に巻く	けむにまく	首相は記者の質問をけむに巻くと、車に乗り込んだ。
370	けりがつく／けりをつける	けりがつく	長い争いにやっとけりがついたようだ。
371	喧嘩を売る	けんかをうる	そこまではっきり言ったのでは、相手にけんかを売ろうなものだ。
372	健康を害する／健康を損なう	けんこうをがいする／けんこうをそこなう	タバコはあなたの健康を害する恐れがあります。
373	見当をつける／当たりをつける	けんとうをつける／あたりをつける	だいたいの見当をつけてから書き始める。
374	芸が細かい	げいがこまかい	彼の仕事は、相変わらず芸が細かい。
375	言語に絶する	げんごにぜつする	列車事故の現場といえば、まさに言語に絶する光景だった。
376	現場を踏む	げんばをふむ	現場を踏んだ者にしかわからないことがある。
377	言を俟たない	げんをまたない	大臣の発言が適当でないことは、言を俟たない。
378	甲乙付け難い	こうおつつけがたい	どちらの店も、味の点では甲乙付けがたい。
379	口実を設ける	こうじつをもうける	何かと口実を設けては酒を飲んでいる。
380	功を奏する	こうをそうする	選手交替が功を奏して、同点に追いついた。
381	声を上げる	こえをあげる	政府の施策に対し、多くの国民が非難の声を上げた。
382	声を荒げる	こえをあらげる	温厚な彼が珍しく声を荒げた。
383	声を掛ける	こえをかける	街中で女の子に声をかける。
384	声を弾ませる	こえをはずませる	よほどうれしかったのか、みんな声を弾ませている。

No.	語句	読み	用例
385	声を張る	こえをはる	声を張って叫んだが、周囲の雑音のかき消されてしまった。
386	(故郷に) 錦を飾る	こきょうににしきをかざる	都会で成功し、故郷に錦を飾った。
387	(国民に) 信を問う	こくみにしんをとう	衆議院を解散し、国民に信を問うべきだ。
388	心置きなく	こころおきなく	人の居ない場所なら心置きなく楽器が演奏できる。
389	心なしか	こころなしか	彼女は、心なしかやつれたように見える。
390	心を痛める	こころをいためる	開発による生態系の破壊に心を痛めている。
391	心を入れ替える	こころをいれかえる	明日からは心を入れ替えて勉強します。
392	心を躍らす／心を躍らせる	こころをおどらす	子どものころは、少年マンガに心を躍らせたものだ。
393	心を砕く	こころをくだく	両国の友好関係の発展に心を砕いてきた。
394	心を配る	こころをくばる	お客様のために心を配るのがサービスというものです。
395	心を許す	こころをゆるす	彼女は彼にすっかり心を許している様子だ。
396	腰が低い	こしがひくい	営業員ならば、あれくらい腰が低いのがいいのだろう。
397	腰が引ける	こしがひける	体験者の話を聞くと、みんな腰が引けてしまう。
398	腰を据えて	こしをすえて	これからは腰を据えて研究に取り組みたい。
399	腰を抜かす	こしをぬかす	金額を聞いたら腰を抜かすぞ。
400	～こと夥しい	ことおびたしい	彼女の説明は、わかりにくいことおびたしい。
401	事と次第による	こととしだによる	事と次第によっては、会社を辞めてもらうことになるかもしれない。
402	事なきを得る	ことなきをえる	リーダーの的確な判断と指示で、グループは事なきを得た。
403	事によると	ことによると	事によると、来月いっぱいグループを解散するかもしれない。
404	言葉を濁す	ことばをにごす	大臣は、具体的な実施時期については言葉を濁した。
405	事もあろうに	こともあろうに	事もあろうに、本人に話してしまうなんて。
406	事もなげに	こともなげに	前人未到の記録を、事もなげに達成してしまった。
407	事を荒立てる	ことをあらだてる	これ以上、事を荒立てるつもりはありません。
408	事を構える	ことをかまえる	軍部の主導で、隣国と事を構えようとしている。
409	媚びを売る	こびをうる	客に媚びを売るばかりの商売ではすぐに飽きられてしまうだろう。
410	小耳に挟む	こみみにはさむ	ちょっと小耳に挟んだんだけど、高さんが結婚するって本当？
411	これ見よがしに	これみよがしに	これ見よがしに巨大な宝石を身にまとっている。
412	根を詰める	こんをつめる	あまり根を詰めずに、適当なところで休憩してくれ。
413	ご一緒する	ごいっしょする	お食事でも、ご一緒しませんか。
414	業を煮やす	ごうをにやす	警察の捜査に業を煮やした遺族が、独自に調査を始めた。
415	御託を並べる	ごたくをならべる	評論家というのは、御託を並べる仕事をしている人のことだ。
416	御多分に漏れず	ごたぶんにもれず	スポーツマンのご多分に漏れず、頭は良くない。

No.	語句	読み	用例
417	後手に回る	ごてにまわる	行政の対応はすべて後手に回っている。
418	五本の指に入る	ごほんのゆびにはいる	現在の日本では、五本の指に入る実力者だ。
419	ご免こうむる	ごめんこうむる	これ以上の争いはご免こうむりたい。
420	採算が取れる／採算が合う	さいさんがとれる／さいさんがあう	採算が取れない店舗は閉鎖するしかない。
421	(先が) 思いやられる	さきがおもいやられる	最初からこの調子では、先が思いやられる。
422	先立つもの (がない)	さきだつものがない	投資をしようにも先立つものがないのだ。
423	先を越す	さきをこす	特許の申請で、ライバルたちに先を越された。
424	先を読む	さきをよむ	いつの時代でも、経営者には先を読む力が必要だ。
425	策を弄する	さくをろうする	下手な策を弄するよりも、真面目にやった方がよい。
426	探りを入れる	さぐりをいれる	ライバル会社の開発状況に探りを入れる。
427	匙を投げる	さじをなげる	医者も匙を投げる病状だ。長くはあるまい。
428	逆立ちしても～できない	さながちしても～できない	あなたの実力では逆立ちしても合格できないだろう。
429	鯖を読む	さばをよむ	女優なら5才くらいは鯖を読んでいるものだよ。
430	様になる	さまになる	最近、寿司を握る姿もだいぶ様になってきた。
431	散々な目 (に遭う)	さんざんなめにあう	株価の下落で散々な目にあった。
432	三拍子揃う	さんびょうしそろう	走攻守の三拍子揃った名選手だった。
433	財を成す	ざいをなす	一代で財を成した実業家だ。
434	思案に暮れる	しあんにくれる	哲学科に通う彼は、今日もいつもの喫茶店で思案に暮れている。
435	しかるべき／しかるべく	しかるべき	問題の社員に対しては、しかるべき処分をお願いします。
436	舌鼓を打つ	したつづみをうつ	日本料理に舌鼓を打つ。
437	知らぬ存ぜぬ	したぬぞんぜぬ	裁判となれば、知らぬ存ぜぬでは済まないだろう。
438	舌を巻く	したをまく	少年のすばらしい演技に誰もが舌を巻いた。
439	四の五の言わず	しのごのいわず	四の五の言わず、さっさと仕事にかかったらどうだ。
440	しびれを切らす／しびれが切れる	しびれをきらす	一時間ほど待ったが、とうとうしびれを切らせて先に行った。
441	私腹を肥やす	しふくをこやす	国民のために働かず、私腹を肥やしている政治家が多い。
442	示しがつかない	しめしがつかない	先生が規則を破っては、子供たちへの示しがつかない。
443	(借金の) 肩代わり (をする)	しゃっきんのかたがわりをする	親戚の借金の肩代わりをすることになった。
444	斜に構える	しゃにかまえる	彼には、昔からどこか斜に構えたところがあった。
445	終止符を打つ／ピリオドを打つ	しゅうしふをうつ	エースのゴールで熱戦に終止符を打った。
446	手中に収める	しゅちゅうにおさめる	投資の成功で、大金を手中に収めた。
447	朱を入れる	しゅをいれる	原稿に朱を入れる。
448	性に合う／性に合わない	しょうにあう	人相手の商売は性に合わない。

No.	語句	読み	用例
449	正面切って	しょうめんきって	正面切って会社を批判する社員がいてもいい。
450	食が細い	しょくがほそい	彼女は相変わらず食が細い。
451	食指が動く	しょくしがうごく	ここまで株価が下がると、逆に食指が動く。
452	触手を伸ばす	しょくしゅをのばす	過半数を確保するため、無所属議員に触手を伸ばしている。
453	食卓に上る	しょくたくにのぼる	日本では多くの魚が食卓に上る。
454	所帯じみる	しょたいじみる	いい若い者が、何を所帯じみたことを言っているんだ。
455	所帯を持つ	しょたいをもつ	このたび、晴れて所帯を持つことになりました。
456	白羽の矢が立つ	しらのはのやがたつ	海外進出に際して、留学経験がある彼に白羽の矢が立った。
457	知る人ぞ知る	しるひとぞしる	目だたない場所にあるが、知る人ぞ知る寿司の名店だ。
458	白旗を掲げる	しろはたをあげる	これでは戦う前から白旗を掲げているようなものだ。
459	神経を尖らせる	しんけいをとがらせる	祭り当日の若者グループの動きに神経を尖らせている。
460	心血を注ぐ	しんけつをそそぐ	ずっと心血を注いできた作品が遂に完成した。
461	辛酸を舐める	しんさんをなめる	彼女も私同様、散々辛酸をなめてきた部類だ。
462	心証を害する	しんしょうをがいする	態度が悪ければ裁判官の心証を害することになる。
463	寝食を忘れる	しんしょくをわすれる	若い頃は、寝食を忘れて仕事に打ち込んだ。
464	真に迫る	しんにせまる	少女の証言は真に迫るものがあつた。
465	信を置く	しんをおく	民主主義とは、国民の良識に信を置くシステムだ。
466	時間を稼ぐ	じかんをかせぐ	出演者の準備が遅れて、司会者のトークで時間を稼いだ。
467	地が出る	じがでる	地が出たのか、ずいぶんと乱暴な言葉遣いだつた。
468	自他共に（認める）	じたともにみとめる	彼女は、自他共に認める釣りの名人である。
469	自腹（を切る）	じばらをきる	学校の予算が少ないので、みんな自腹を切って教材を購入している。
470	自明の理	じめいのり	無計画な事業が失敗するのは自明の理だ。
471	術中に嵌る	じゅちゅうにはまる	正面から立ち向かったのでは、それこそ相手の術中に嵌ってしまう。
472	情に流される	じょうにながされる	人事に関しては、情に流されることがあつてはならない。
473	情に脆い	じょうにもろい	クールなイメージだが、意外と情にもろいところがある。
474	姿を消す	すがたをけす	携帯電話の普及で、公衆電話が姿を消した。
475	好き好んで	すきこのんで	なにも好き込んでこんな仕事をしているわけじゃない。
476	筋が通る／筋を通す	すじがとおる	そんな筋の通らない話には賛成できない。
477	筋金入り	すじがねいり	彼女は筋金入りの反米主義者だ。
478	スタートを切る	スタートをきる	新製品の開発プロジェクトがスタートを切った。
479	捨てたものではない	すてたものではない	善良な若者たちを見れば、世の中捨てたものではないと思う。
480	スト（ライキ）を構える	すとらいきをかまえる	私鉄各社が、始発からのストを構えている。

No.	語句	読み	用例
481	スポットを当てる	すぽっとをあてる	地域の出来事にもスポットを当てて報道していきたい。
482	隅から隅まで	すみからすみまで	家の中を隅から隅まで探したが、とうとう見つからなかった。
483	隅に置けない	すみにおけない	あんな美人の彼女がいるなんて、周くんも隅に置けないね。
484	～(する)にも程がある	するにもほどがある	こんなミスをするなんて、仕事ができないにも程がある。
485	～する羽目になる	するはめになる	一度借金をすると、借金のためにまた借金をする羽目になる。
486	図に乗る	ずのにのる	少年たちは、図に乗って行動をどんどんエスカレートさせた。
487	精彩を欠く	せいさいをかく	シーズン前半は精彩を欠いたが、実力に衰えがあるとは思えない。
488	精を出す	せいをだす	山村では、老人たちが畑仕事に精を出している。
489	世間知らず	せかんしらず	彼女は純粋なのではなく、世間知らずなだけだ。
490	席を改める	せきをあらためる	話の続きは、席を改めてからにしましょうか。
491	席を外す	せきをはずす	田中はあいにく席を外しております。
492	世知辛い(世の中になる)	せちがらいよのなかになる	煙草も自由に吸えないとは、世知辛い世の中になったものだ。
493	切羽詰まる	せっぱつまる	締切が迫って切羽詰まった私は、移動中も原稿を書き続けていた。
494	世話が焼ける	せわがやける	買い物も一人で出来ないなんて、世話の焼ける人ですね。
495	世話を掛ける	せわをかける	いろいろ世話をかけるでしょうが、よろしくお願いします。
496	世話を焼く	せわをやく	彼女は、いろいろと知らない世話を焼いてくれる。
497	背を向ける／背中を向ける	せをむける	流行に背を向けて、独自のスタイルを追及している。
498	煎じ詰める(と)	せんじつめると	煎じ詰めると、どう予算を確保するかと言う問題に尽きる。
499	先手を打つ	せんてをうつ	優位を維持するためには、常に先手を打っておかなければならない。
500	先頭を切る	せんとうをきる	社長が先頭を切って社内の改革に取り組む。
501	先鞭をつける	せんべんをつける	携帯電話のレンタル事業に先鞭をつけた企業として有名だ。
502	贅を尽くす	ぜいをつくす	当時の貴族が食べたという贅を尽くした食事が再現された。
503	是が非でも	ぜがひでも	今年有能力試験では、是が非でも合格したい。
504	銭になる	ぜになる	どんなことでも、銭になるのなら引き受けてもいい。
505	層が厚い／層が薄い	そうがあつい／そうがうすい	新しいチームだけに選手の層が薄い。
506	総すかん(を食う)	そうすかんをくう	不正を告発したことで、総すかんを食ってしまった。
507	想像を絶する	そうぞうをぜつする	名人と呼ばれるまでには、想像を絶する努力をしたのであろう。
508	総なめにする	そうなめにする	賞という賞を総なめにし、天才歌手と呼ばれていた。
509	底が知れる	そこがしれる	まともな意見も言えないようでは、人間の底が知れるというものだ。
510	底を打つ	そこをうつ	下がりつづけていた相場もようやく底を打ったかに思われた。
511	底をつく	そこをつく	あまりの売れ行きに、在庫が底をついてしまった。
512	俎上に載せる	そじょうにのせる	金融問題を議論の俎上に載せる。

No.	語句	読み	用例
513	そっぽを向く	そっぽをむく	いくら呼んでも、彼女はそっぽを向いたままだ。
514	そつがない	そつがない	彼女は何をやらせてもそつがない。
515	袖を通す	そでをとおす	新しい服に袖を通す。
516	(その) 手は食わない	そのてはくわない	もうその手は食わないぜ。
517	その日暮らし	そのひぐらし	元はエリート社員でも、今はその日暮らしだ。
518	反りが合わない	そりがあわない	どうにもそりが合わない同僚がいる。
519	それに引き換え	それにひきかえ	弟は何でも器用にできる。それに引き換えあなたと来たら。
520	揃いも揃って	そろいもそろって	揃いも揃って遅刻とは、いったいどうしたことだ。
521	そろばんを弾く	そろばんをはじく	成功したらいくらになるかと、今からそろばんを弾いている。
522	遜色 (が) ない	そんしょくがない	一流メーカーの製品に比べても遜色がない。
523	そんじょそこ (い) らには	そんじょそこいらには	そんじょそこらには売っていない大きさです。
524	(そんなこととは) 露知らず	そんなこととはつゆ知らず	会社が大騒ぎになっているとはつゆ知らず、温泉で休んでいた。
525	大概にする／大抵にする	たいがいにする／たいていにする	大人を馬鹿にするのも大概にしない。
526	太鼓判を捺す	たいこばんをおす	彼の1級合格は、太鼓判を捺していい。
527	体調を崩す	たいちょうをくずす	寒い日が続くので、体調を崩さないようにしてください。
528	大枚をはたく	たいまいをはたく	大枚を叩いて購入したらしい真っ赤な新車が停まっていた。
529	たかが知れ (てい) る	たかがしれている	田舎の学校のトップと言っても、たかが知れている。
530	高を括る	たかをくくる	簡単なテストだからと高をくくっていたら、全然出来なかった。
531	竹を割ったような	たけをわったような	彼女は、竹を割ったような性格の人です。
532	多少なりとも	たしょうなりとも	本人にも多少なりとも責任があるものと考えています。
533	只ならぬ	ただならぬ	ただならぬ気配を感じて表に出ると、外国人が集会を開いていた。
534	太刀打ち (が) できない	たちうちができない	輸入品には、価格面では太刀打ちできない。
535	束になって	たばになって	お前たちが束になっても勝てる相手ではない。
536	玉の輿 (にのる)	たまのこしにのる	玉の輿に乗りたいと考える女性が多い。
537	袂を分かち	たもとをわかち	かつての盟友と袂を分かち、新しい政党を結成した。
538	端を発する	たんをはつする	アメリカの誤った政策に端を発して、世界規模の不況となった。
539	大事をとる	だいじをとる	風邪が治ったばかりなので、大事をとって早めに帰ります。
540	抱き合わせ (商法)	だきあわせしょうほう	新製品と在庫品とを抱き合わせで販売する。
541	茶毘に付す	だびにふす	2人の遺体は、現地で茶毘に付された。
542	知恵を借りる	ちえをかりる	こうなったら先輩方の知恵を借りるよりない。
543	力が入る／力を入れる	ちからがはいる	初めての展示会とあって、だいぶ力が入っている。
544	力を合わせる／力を合わせる	ちからをあわせる	社員一同力を合わせて、困難を乗り越えていきたい。

No.	語句	読み	用例
545	力を借りる	ちからをかりる	友人の力を借りてようやく完成した。
546	力を尽くす	ちからをつくす	彼は日本と台湾の友好親善に力を尽くした。
547	血が通う	ちがきよう	市民に親切的な、血が通った行政を目指さなければならない。
548	血が騒ぐ	ちがさわぐ	江戸っ子なので、祭りになると血がさわぐ。
549	血の気が引く	ちのけがひく	あまりの恐ろしさに血の気が引いた。
550	血道を上げる	ちみちをあげる	中国人の多くは金儲けに血道をあげている。
551	血も涙もない	ちもなみだもない	アメリカは血も涙もない国だ。
552	茶々を入れる	ちゃちゃをいれる	人が真面目に話しているのに、茶々を入れるのはやめなさい。
553	注意を払う	ちゅういをはらう	製品の安全管理には万全の注意を払っている。
554	注文をつける	ちゅうもんをつける	与党からは政府の方針に注文をつける声が相次いだ。
555	調子を合わせる	ちょうしをあわせる	とりあえず彼女の話に調子を合わせておいた。
556	ちょっかいを出す	ちょっかいをだす	他人の彼女にちょっかいを出すなんて、いい趣味だとは思わない。
557	血を見る	ちをみる	対立が解消されなければ、また血を見ることになる。
558	沈黙を破る	ちんもくをやぶる	長い沈黙を破って発言を始めた。
559	付かず離れず	つかずはなれず	彼女とは、付かず離れずの関係を保っている。
560	つかぬこと (を伺いますが／お聞きしますが)	つかぬことをうかがいますが	つかぬことをうかがいますが、この辺にトイレはありませんか。
561	掴みどころがない	つかみどころがない	証拠も目撃者もなく、どうにもつかみどころがない事件だ。
562	都合をつける	つごうをつける	何とか都合をつけて参加するつもりです。
563	辻褄が合う	つじつまが合う	彼女が共犯者ならば、話のつじつまがあう。
564	潰しが効く	つぶしがきく	医師など、専門性が高すぎて潰しがきかない職業の代表だ。
565	壺にはまる	つぼにはまる	新しいギャグがつぼにはまって、笑い転げていた。
566	罪を着せる	つみをきせる	友人に罪を着せるなど考えられないことだ。
567	罪を着る	つみをきる	知人の罪を着て、身代わりで出頭した。
568	手当たり次第に	てあたりしだいに	本という本を手当たり次第に読んでいった。
569	手が込んでいる／手の込んだ	てがこんでいる	この店の料理は実に手が込んでいる。
570	手が付けられない	てがつけられない	普段はおとなしいが怒ると手が付けられなくなる。
571	手が届く	てがとどく	この程度の価格なら、庶民でも手が届く。
572	手が伸びる	てがのびる	ダイエット中なのに、つついお菓子に手が伸びる。
573	手が離せない	てがはなせない	火を使っている手が話せないから、代わりに電話に出て。
574	手が離れる／手を離れる	てがはなれる	下の子も大学に入って、ようやく手が離れた。
575	手が早い	てがはやい	剛は手が早い男だから気をつけろ。
576	敵に回す	てきにまわす	私を敵に回すつもりなら、別に構いませんが。

No.	語句	読み	用例
577	手塩にかける	てしおにかける	手塩にかけて育ててきた子に先立たれてしまった。
578	手順を踏む／手続きを踏む	てじゅんをふく	手順を踏んで申請しないと認められないでしょう。
579	手玉にとる	てだまにとる	女子高生でありながら、多くの男たちを手玉に取っていた。
580	手取り足取り	てとりあしとり	先生が、基本の動きを手取り足取り教えてくれた。
581	手に汗(を)握る	てにあせをにぎる	決勝戦は、予想通り手に汗を握る展開になった。
582	手に余る	てにあまる	国政に関わるような問題はわれわれの手に余る。
583	手に入れる／手に入る	てにいれる／てにはいる	欲しいものはどんなことをしてでも手に入れる主義だ。
584	手に負えない	てにおえない	彼女はわがまますぎて私の手に負えない。
585	手にする	てにする	宝くじに当選して大金を手にした。
586	手につかない	てにつかない	彼のことが気になって、勉強も手につかない。
587	手回しが良い	てまわしがよい	宿泊先まで用意してあるとは、何とも手回しが良いことだ。
588	手も足も出ない	てもあしもでない	数学のテストは、問題が難しすぎて手も足も出なかった。
589	手を上げる	てをあげる	女に手を上げる男なんて最低だ。
590	手を打つ	てをうつ	早急に手を打たなければ、株価の下落は止まらないだろう。
591	手を貸す	てをかす	階段が上れない身体障害者に手を貸す。
592	手を切る	てをきる	暴力団とは手を切った。今は善良な一市民だよ。
593	手を組む	てをくむ	二人が手を組めば最高のコンビになると思う。
594	手を加える	てをくわえる	素材を生かすように手を加えるのが江戸前の寿司だ。
595	手を差し伸べる	てをさしのべる	貧しい人びとに救いの手を差し伸べる。
596	手を携える	てをたずさえる	もう20年以上、二人で手を携えてやってきた。
597	手を出す	てをだす	先に手を出した方が悪いに決まっている。
598	手を尽くす	てをつくす	医師たちは手を尽くしたが、被害者を救うことはできなかった。
599	手を抜く	てをぬく	施工にあたって手を抜くようなことがあってはならない。
600	手を引く	てをひく	駅前ビルの開発事業からは手を引くことにする。
601	手を広げる	てをひろげる	飲食業だけでなく宿泊業にも手を広げる。
602	手を回す	てをまわす	事前に手を回して活動を妨害した疑いがある。
603	手を焼く	てをやく	彼女のわがままには手を焼いている。
604	手を入れる	てをれる	学生の作文に先生が手を入れる。
605	出端を挫く	でばなをくじく	相手チームの出端をくじく、見事な勝利となった。
606	出る所に出る	でるところにでる	そこまで言うのなら、出るところに出てもいい。
607	～とえば聞こえがいいが	といえきこえがいいが	社長といえ聞こえはいいが、社員はひとりしかいないらしい。
608	～と謳われる	とうたわれる	生存権は憲法にもうたわれている基本的な権利だ。

No.	語句	読み	用例
609	当を得た	とうをえた	まことに当を得た受け答えだったと思う。
610	〜と思しき	とおぼしき	コンビニの前に中学生と思しき集団がいる。
611	床につく	とこにつく	明日の朝早いので、今夜は早めに床につくことにする。
612	年が改まる	としがあらたまる	もうすぐ年が改まる。
613	年を食う	としをくう	本人が言うよりも年を食っているように見える。
614	(〜と) 背中合わせだ	とせなかあわせだ	今回の任務は危険と背中合わせだ。嫌ならやめても構わない。
615	とってつけたような	とってつけたような	なんだか、とってつけたような話ですね。
616	(〜とは) 見上げたものだ	とはみあげたものだ	盆も正月も休まず働くとは見上げたものだ。
617	(〜とは) 訳が違う	とはわけがちがう	プロの大会ともなれば、アマチュアの試合とはわけが違う。
618	飛ぶように売れる	とぶようにうれる	1キロ30000円もする肉が、飛ぶように売れている。
619	途方に暮れる	とほうにくれる	職を失って途方に暮れている。
620	止め処がない	とめどがない	大きな悲しみに止めどなく涙が流れてくる。
621	捕えどころがない	とらえどころがない	彼女の性格はどうにもとらえどころがない。
622	取りつく島もない	とりつくしまもない	何度言ってもダメの一点張りで、取りつく島もない。
623	取りも直さず	とりもなおさず	部下のミスはとりもなおさず上司の責任である。
624	どういう風の吹き回し?	どうかぜのふきまわし	あなたが訪ねてくるなんて、いったいどういう風の吹き回し?
625	度が過ぎる	どがすぎる	厳しい指導が必要なのはわかるが、いくら何でも度が過ぎている。
626	度胸が据わる	どきょうがすわる	若いわりには度胸が据わっている。
627	度肝を抜かれる／度肝を抜く	どぎもをぬかれる	初めて彼女のステージを見たときは、度肝を抜かれた。
628	どじを踏む	どじをふむ	最後の最後にどじを踏んでしまった。
629	どっちへ転んでも	どっちへころんでも	どっちへ転んでも業者の側が儲かるようにできている。
630	どっちもどっち	どっちもどっち	毎回のようには争っているが、どっちもどっちだと思う。
631	努力を払う	どりょくをはらう	発展のためにはより一層の努力を払う必要がある。
632	どれもこれも	どれもこれも	どれもこれも展示されているのは高価な宝石ばかりだ。
633	度を越す	どをこす	運動も度を越すと逆に身体に悪いと思う。
634	(無い) 知恵を絞る	ないちえをしぼる	知恵を絞ったが、いいアイディアは出なかった。
635	名が上がる	ながあがる	これでこそわが社の名が上がるというものだ。
636	名がある／名のある	ながある	名がある店だからといって、料理がうまいとは限らない。
637	名が通る	ながとおる	彼の父は、名が通った言語学者だ。
638	なきにしもあらず	なきにしもあらず	彼女に任せてはみたものの、心配なところがなきにしもあらずだ。
639	情けを掛ける	なさけをかける	情けをかける人が優しい人だとは限らない。
640	雪崩を打って〜する	なだれをうって〜する	代議員は雪崩を打ってオバマ支持に移った。

No.	語句	読み	用例
641	何かにつけて	なにかにつけて	彼は何かにつけて文句ばかり言っている。
642	何から何まで	なにからなにまで	何から何まで本当にお世話になりました。
643	何が何でも	なにがなんでも	何が何でも明日までに届けなければならない荷物がある。
644	何はさておき	なにはさておき	何はさておき、この書類だけは今日中に完成させなければ。
645	何はともあれ	なにはともあれ	何はともあれ、みんな無事で良かったじゃないか。
646	何はなくとも	なにはなくとも	この暑さなら、何はなくともまずはビールだ。
647	なりを潜める	なにをひそめる	不気味なことに、反政府組織はすっかりなりを潜めている。
648	名乗りを上げる	なのりをあげる	新しい府知事候補に名乗りをあげた。
649	涙ながらに	なみだながらに	障害児を子に持つ親たちが、涙ながらに支援を訴えた。
650	涙に暮れる	なみだにくれる	大切にしていたペットが死んで涙に暮れている。
651	涙を飲む	なみだをのむ	前回の大会は、1点差で涙を飲んだ。
652	波に乗る	なみにのる	逆転勝利で波に乗ったチームは、その後も連勝を続けた。
653	舐めて掛かる	なめてかかる	子供だからとなめてかかると痛い目にあう。
654	名を売る／名が売れる	なをうる	全国に名を売るにはテレビに出るのが一番だ。
655	名を連ねる	なをつらねる	現役の選手たちも、賛同者に名を連ねている。
656	名を成す	なをなす	政治家だけでなく音楽家としても名をなした。
657	難癖をつける	なんくせをつける	すぐに難癖をつけようとするマスコミもまた信用できない。
658	～に裏打ちされる	にうらうちされる	経験に裏打ちされた意見には耳を貸すべきだ。
659	荷が重い	にがおもい	彼女の実力ではまだ荷が重いだろう。
660	逃げも隠れもしない	にげもかくれもしない	逃げも隠れもしないから、その話はあとにしてくれ。
661	逃げを打つ	にげをうつ	すぐに逃げを打つのも政治家特有の行動だ。
662	(～に) 漕ぎ着ける	にこぎつける	20年に及ぶ工事の後、ついに開通にこぎ着けた。
663	～に忍びず／～に忍びない／見るに忍びない	にしのびず	犠牲者の遺族は、見るに忍びないほどの悲しみようだった。
664	にっちもさっちもいかない	にっちもさっちもいかない	話がうまく通じず、にっちもさっちもいかない。
665	～に通じている	につうじている	彼女はフランスの文化に通じているらしい。
666	～に次ぐ～	につぐ～	戦争に次ぐ戦争で、国土は荒れ果ててしまった。
667	似て非なる (もの)	にてひなるもの	引用と盗用とは似て非なるものの典型だ。
668	似ても似付かない	にてもにつかない	似顔絵を描いたが、本人とは似ても似つかないものになった。
669	～に名を借りて	になをかりて	反省会に名を借りて、結局は酒ばかり飲んでいる。
670	二の足を踏む	にのあしをふむ	多額の初期投資に、二の足を踏む人が多い。
671	二の舞 (を演じる／を舞う)	にのまいをえんじる	十分準備したつもりが、去年の二の舞を演じる結果となった。
672	～に火がつく	にひがつく	テレビ番組で紹介されてから、人気に火がついた。

No.	語句	読み	用例
673	～に任せて～する	にまかせて～する	勢いに任せて勝負すると大抵は負けるものだ。
674	～に満たない	にみたない	希望者は住民の2割にも満たない。
675	～に見舞われる	にみまわれる	この町は、これまで何度も大火に見舞われたのだそうだ。
676	～に物を言わせる	にものをいわせる	金に物を言わせて、教授のポストを手に入れたらしい。
677	抜き差しならない	ぬきさしならない	国家の財政は抜き差しならない状態に近づいている。
678	濡れ衣を着せる	ぬれぎぬをきせる	部下に濡れ衣を着せるような上司は最悪だ。
679	値が張る	ねがはる	いい物はやはり値が張る。
680	猫をかぶる	ねこをかぶる	人前では猫を被っているとしか思えない。
681	寝覚めが悪い	ねざめがわるい	自殺でもされたら、こっちも寝覚めが悪い。
682	根絶やしにする	ねだやしにする	アメリカ人を根絶やしにすれば世界は平和になるかもしれない。
683	熱が冷める	ねつがさめる	あれだけ夢中だったが、すっかり熱が冷めたようだ。
684	熱を上げる	ねつをあげる	娘はアイドルグループの応援に熱を上げている。
685	寝ても覚めても	ねてもさめても	寝ても覚めても仕事のことばかり考えている。
686	根に持つ	ねにもつ	見掛けによらず根に持つタイプだから気をつけた方がよい。
687	根掘り葉掘り	ねほりはほり	面接では、いろいろなことを根掘り葉掘り質問された。
688	眠りにつく	ねむりにつく	内戦も終わり、安心して眠りにつくことができる。
689	狙いをつける	ねらいをつける	主婦層に狙いをつけた番組を制作することになった。
690	音を上げる	ねをあげる	過重な労働に多くの社員が音を上げている。
691	(念には) 念を入れる	ねんにはねんをいれる	念には念を入れてチェックしたので、間違いはないはずだ。
692	念を押す	ねんをおす	何度も念を押したが、結局は間違った物を買ってきた。
693	(～の) 手に渡る	のてにわたる	昔住んでいた家は、もう人の手に渡ってしまった。
694	飲み込みが早い	のみこみがはやい	弟の方が飲み込みが早い。
695	(～の) 芽を摘む	のめをつむ	危険の芽を摘むように心掛けたい。
696	～の呼び声が高い	のよびごえがたかい	彼は現代最高の料理人との呼び声が高い。
697	のらりくらり (とした)	のらりくらりとした	首相は、のらりくらりと記者の質問をかわした。
698	狼煙を上げる	のろしをあげる	反撃ののろしを上げるホームランだった。
699	(～は) 言うに及ばず	はいうにおよばず	若者は言うに及ばず、中年や老人にまで広いファンを持つ。
700	歯が立たない	はがたたない	旧式の兵器では、まったく歯が立たない。
701	迫真の演技	はくしんのえんぎ	迫真の演技にみんなすっかりだまされてしまった。
702	薄氷を踏む	はくひょうをふむ／うすごおりをふむ	勝つには勝ったものの、薄氷を踏む思いだった。
703	恥も外聞もない	はじもがいぶんもない	母が私を呼ぶときには、恥も外聞もなく大声を出す。
704	恥をかく	はじをかく	少しぐらい日本語ができないと恥をかきますよ。

No.	語句	読み	用例
705	恥を知れ	はじをしれ	誤った政策を改めない首相に対しては、恥を知れと言いたい。
706	弾みがつく	はずみがつく	今回の勝利で、チームにも弾みがつくだろう。
707	旗色が悪い	はたいろがわるい	会議で現状維持を主張してみたが、どうも旗色が悪かった。
708	肌身離さず (持っている)	はだみはなさずもっている	恋人にもらったお守りを、肌身離さず持っている。
709	発破を掛ける	はっぱをかける	生産目標の達成に向け、社長が全職員を集めてはっぱをかけた。
710	歯止めが利く／歯止めが利かなくなる	はどめがきく	規制を廃止してしまうと、歯止めが利かなくなるおそれがある。
711	鼻息が荒い	はないきがあらひ	新興国の市場にも進出しようと、社長は鼻息が荒い。
712	鼻が利く	はながきく	あの人は、お金のこととなると鼻が利く。
713	話がつく／話をつける	はなしがつく	2年に渡る交渉で、やっと話がついた。
714	話が弾む	はなしがはずむ	彼女とは故郷が近いこともあって、話が弾んだ。
715	話が早い	はなしがはやい	協力者を捜しているのなら話が早い。すぐに契約しましょう。
716	話分かる	はなしがわかる	聞いていたのとは違って、意外と話が分かる人だ。
717	話の腰を折る	はなしのこしをおる	彼は、いつも話の腰を折るようなことを言い出す。
718	鼻にかける	はなにかける	一流大学出を鼻にかけていて、嫌なヤツだ。
719	鼻につく	はなにつく	最近、過剰な演出が鼻につくようになってきた。
720	花を添える	はなをそえる	最終戦に勝利し、リーグ戦全勝で優勝に花を添えた。
721	花を持たせる	はなをもたせる	レースは、引退する選手に花を持たせる結果となった。
722	歯に衣着せぬ	はにきぬぎせぬ	彼女の母は、歯に衣着せぬ批判で有名なジャーナリストだった。
723	羽を伸ばす	はねをのばす	奥さんが帰省しているのをいいことに、すっかり羽を伸ばしている。
724	幅を利かせる	はばをきかせる	党の中で幅を利かせていた官僚出身者が一掃された。
725	幅を持たせる	はばをもたせる	もう少し幅を持たせて、10から100までにしてはどうでしょう。
726	羽振りが良い	はぶりがよい	不動産投資で、だいぶ羽振りがよいらしい。
727	早い話が	はやいはなしが	早い話が、会社はあなたを必要としていないということだ。
728	腹が据わる／腹を据えて	はらがすわる	リーダーの腹が据わっていないと、グループはまとまらない。
729	腹に据えかねる	はらにすえかねる	よほど腹に据えかねたのか、いつになく厳しい口調で批判した。
730	腹を抱える	はらをかかえる	テレビのお笑い番組で、腹を抱えて笑った。
731	腹を決める	はらをきめる	口には出さないが、首相の腹は決まっているようだ。
732	腹を括る	はらをくくる	なるようになれと、腹をくくって見守っていた。
733	歯を食い縛る	はをくいしばる	この6年間、歯を食い縛って頑張ってきました。
734	ハンドルを握る	ハンドルをにぎる	ハンドルを握るときは、お酒を飲まないようにしましょう。
735	馬鹿を言え	ばかをいえ	馬鹿を言え。こんな金が、会社のどこにあると言うんだ。
736	ばちが当たる	ばちがあたる	悪さばかりしているからばちがあたったのだろう。

No.	語句	読み	用例
737	ばつが悪い	ばつがわるい	変なところで知り合いに会って、ばつが悪い思いをした。
738	バランスをとる	バランスをとる	難しい問題に簡単な問題を混せてバランスをとる。
739	ぱっとしない	ぱっとしない	有名な店と聞いて行ってみたが、あまりぱっとしなかった。
740	引き合いに出す	ひきあいに出す	注意されたとき、すぐ人のことを引き合いに出すのはやめなさい。
741	引く手あまた	ひくてあまた	いくら不景気で就職が悪くても、優秀な学生なら引く手あまただ。
742	引けをとる／引けをとらない	ひけをとる	この食堂の料理は、一流レストランにも引けをとらない。
743	膝を突き合わせる	ひざをつきあわせる	会社の運営方針について、社長と膝を突き合わせて討論した。
744	額に汗する	ひたいにあせする	それは、あなたの両親が額に汗して稼いだお金だ。
745	ひっきりなしに	ひっきりなしに	テレビで紹介された直後から、ひっきりなしに電話がかかってきた。
746	引っ込みがつかない	ひっこみがつかない	あれだけ言ったから、彼女としても引っ込みがつかないのだろう。
747	筆舌に尽くしがたい	ひつぜつにつくしがたい	被害者たちの苦労たるや、筆舌に尽くし難い。
748	一泡吹かせる／一泡吹かす	ひとあわふかせる	敵に一泡吹かせようと、極秘の作戦を用意している。
749	一息入れる	ひといきいれる	仕事の合間に、コーヒーで一息入れる。
750	一癖も二癖もある	ひとくせもふたくせもある	呼びかけに応じて、一癖も二癖もあるメンバーが集まった。
751	一言多い	ひとことおおい	あなたはいつも一言多い人ですね。
752	人ごとで(は)ない	ひとごとではない	遠く離れた国の市場の下落さえ、決して人ごとではない時代だ。
753	一筋縄ではいかない	ひとすじなわではいかない	一見簡単そうだが、考えれば考えるほど一筋縄では行かない問題だ。
754	ひとたまりもない	ひとたまりもない	この程度の軍備では、ロシア軍が来たらひとたまりもない。
755	一段落する／一段落つける	ひとだんらくする	仕事が一段落したら、また遊びに行きます。
756	人っ子一人いない	ひとっこひとりいない	不景気のせいか、街には人っ子一人いなかった。
757	人使いが荒い	ひとづかいがあらひ	いつもながら、うちのボスは人使いが荒い。
758	人並み外れた	ひとなみはずれた	彼女には、人並みはずれた才能があるようだ。
759	一肌脱ぐ	ひとはだぬぐ	知り合いに頼まれて一肌脱ぐことになった。
760	人目につく	ひとめにつく	人目につく場所に掲示してください。
761	人目を盗む	ひとめをぬすむ	3年の間、人目を盗んで会っていたのだという。
762	人目を憚る	ひとめをはばかり	真夜中に出掛けるなんて、人目を憚る仕事でもしているに違いない。
763	一役買う	ひとやくかう	アイドルたちが、事故防止のPRに一役買った。
764	一山当てる	ひとやまあてる	聞いたところでは、株で一山当てたらしい。
765	一人相撲(を取る)／独り相撲(を取る)	ひとりずもうをとる	四球を連発するなど、完全な独り相撲で敗戦投手になった。
766	非の打ち所がない	ひのうちどころがない	成績も性格も容姿も抜群で、まるで非の打ち所がない。
767	火の手が上がる	ひのてがあがる	駅の裏手の木造のアパートから火の手が上がったらしい。
768	(批判の) 矛先を向ける	ひはんのほこさきをむける	首相は、マスコミに批判の矛先を向けた。

No.	語句	読み	用例
769	暇に飽かして	ひまにあかして	暇に飽かしてDVDばかり鑑賞している。
770	百にひとつも〜ない／万にひとつも〜ない	ひやくにひとつも〜ない	台湾チームが勝つ可能性は、百にひとつもないだろう。
771	百も承知	ひやくもしょうち	投資にリスクがあることなど百も承知です。
772	百歩譲って	ひゃっぽゆずって	百歩譲って馬鹿ではなくても、賢くないことだけは確かだ。
773	冷や汗をかく	ひやあせをかく	準備していない質問をされて、冷や汗をかいた。
774	平たく言うと	ひらたくいうと	平たく言うと、金持ちは親も金持ちのことが多いということです。
775	日を改める	ひをあらためる	詳しい話は日を改めてすることにしましょう。
776	火を通す	ひをとおす	豚肉には良く火を通した方がいいですよ。
777	びくともしない	びくともしない	この会社は、その程度の損失ではびくともしない。
778	ピッチを上げる	ピッチをあげる	締切に向けて、作業のピッチを上げる必要がある。
779	ピントが外れる	ピントがはずれる	彼の質問はいつもピントが外れている。
780	不意打ち (を食う／を食らう)	ふいうちをくう	こんなに早く結果が出るとは、不意打ちを食ったような気分だ。
781	不覚をとる	ふかくをとる	前回は若手選手に不覚をとったが、今回は順調に勝ち上がっている。
782	含みを持たせる	ふくみをもたせる	はっきりと断言せずに、表現に含みを持たせてある。
783	不幸中の幸い	ふこうちゅうのさいわい	骨折だけで済んだのは、不幸中の幸いだった。
784	筆を執る／ペンを執る	ふでをとる	作品の出来はともかく、私が筆を執るのは真面目な気持ちからだ。
785	不徳の致すところ	ふとくのいたすところ	今回の騒動は、すべて私の不徳の致すところです。
786	懐が暖まる	ふところがあたまる	臨時ボーナスが支給され、だいぶ懐が暖まった。
787	懐が寒い	ふところがさむい	ここのところ出費がかさんで懐が寒い。
788	懐が深い	ふところがふかい	誰でも気楽に付きあえる師匠だが、それでいて懐が深い。
789	懐にする	ふところにする	株価の急激な値上がりで、1億円からの金を懐にすることとなった。
790	懐を痛める	ふところをいためる	思わぬ病気にかかり、治療費でまた懐を痛めることになった。
791	腑に落ちない	ふにおちない	本人は犯行を認めているが、どうしても腑に落ちない点がある。
792	不評を買う	ふひょうをかう	期待の新製品だったが、消費者には不評を買った。
793	不問に付す／不問に付する	ふもんにふす	ルール違反ではあるが、事情を考慮して不問に付すことにした。
794	分が悪い	ぶがわるい	分の悪い相手なので、何か策を講じなければ勝てないだろう。
795	物議を醸す	ぶつぎをかもす	雑誌に発表した論文で物議をもかもす結果となった。
796	プラスα	プラスアルファ	金メダルは10個プラスαを期待している。
797	平行線を辿る	へいこうせんをたどる	議論は最後まで平行線を辿った。
798	減らず口 (を叩く)	へらずぐちをたたく	相変わらず減らず口を叩いている。
799	屁理屈 (を捏ねる)	へりくつをこねる	経理屈を捏ねるよりも、まずは反省しなさい。
800	弁が立つ	べんがたつ	まだ若い政治家だが、なかなか弁が立つ。

No.	語句	読み	用例
801	ほぞを噛む	ほぞをかむ	今勉強しないと、後でほぞを噛む結果になるぞ。
802	ほつつき歩く	ほつつきあるく	こんな時間までいったいどこをほつつき歩いていたんだ。
803	(ホッと) 胸を撫で下ろす	ほっとむねをなでおろす	契約交渉が無事に終わり、ホッと胸を撫で下ろした。
804	熱りが冷める	ほとぼりがさめる	ほとぼりが冷めるまで、しばらく姿を隠していた方がよい。
805	骨身に染みる／骨身に応える	ほねみにしみる／ほねみにこたえる	辛いときほど、彼の優しさが身に染みる。
806	法螺を吹く	ほらをふく	彼女の父は、酒を飲んでホウを吹くのが趣味だった。
807	歩を進める	ほをすすめる	彼の研究は、ゆっくりだが着実に歩を進めている。
808	棒に振る	ぼうにふる	警察の厄介になったのでは、一生を棒に振ることになる。
809	枚挙に暇がない	まいきよにいとまがない	彼女の欠点と言えば、枚挙にいとまがないほどだ。
810	前倒し (に) する	まえだおしにする	予定を前倒しにして、今月末に開催することにした。
811	罷り間違っても	まかりかちがっても	まかり間違っても、あのホテルにだけは泊まらない方がよい。
812	魔がさす	まがさす	教師が万引きをしておいて、魔がさしたでは済まないだろう。
813	間が抜ける	まがぬける	兄の方が明るい性格だが、ちょっと間が抜けている。
814	間が持てない	まがもてない	休日には、いつも退屈で間がもてない。
815	曲がりなりにも	まがりなりにも	曲がりなりにも大学生なのだから、そのくらいの常識はあるだろう。
816	巻き添えを食う	まぎぞえをくう	暴力団の抗争の巻き添えを食った市民が犠牲になった。
817	幕がおりる／幕をおろす	まくがおりる	容疑者の死をもって、事件は幕をおろした。
818	幕が切って落とされる	まくがきっておとされる	熱戦の幕が切って落とされた。
819	幕が閉じる／幕を閉じる	まくがとじる	大会は成功のうちに幕を閉じた。
820	幕を引く	まくをひく	老舗デパートが、120年の歴史に幕を引いた。
821	実しやかに	まことしやかに	彼女が魔女だと言う噂が、まことしやかに流れている。
822	股に掛ける	またにかける	彼女は世界を股にかけて活躍するマジシャンだ。
823	待ちに待った	まちにまった	待ちに待ったバーゲンセールの日がやってきた。
824	全く以て	まったくもって	事件については、まったくもって不可解と言うべきほかない。
825	待てど暮らせど	までどくらせど	待てど暮せど、彼からは何の連絡も来ない。
826	的を射る／的を射た	まとをいる	彼の意見はどれもこれも的を射ている。
827	真に受ける	まにうける	真面目な人だけに、冗談を真に受けるところがある。
828	目の当たりにする	まのあたりにする	事故を目の当たりにしてから、安全運転を心掛けるようになった。
829	ままならない／ままならぬ	ままならない	こんな安月給では、生活さえままならないだろう。
830	眉をひそめる	まゆをひそめる	大統領候補の不用意な発言に、多くの聴衆が眉をひそめた。
831	丸くおさまる／丸くおさめる	まるくおさまる	みんながそれぞれに得をすれば、すべてが丸くおさまる。
832	間を持たせる	まをもたせる	何とか間を持たせようと歌を歌ったが、逆効果だった。

No.	語句	読み	用例
833	満更で (も) ない	まんざらでもない	初めは嫌がるかと思っていたが、まんざらでもない様子だ。
834	満を持して	まんをじして	年末商戦を前に、満を持して新製品を投入した。
835	見え見え	みえみえ	お金のためにやっていることが見え見えだ。
836	見栄を張る	みえをはる	見栄を張って大きな車を買ったが、支払いに苦労している。
837	磨きがかかる	みがきがかかる	ここのところ、ますます芸に磨きがかかってきたようだ。
838	身が入る／身を入れる	みが入る／みをいれる	テストを目前にして、ようやく勉強に身が入ってきた。
839	身が持たない	みがもたない	こんなに仕事が多くては、こっちの身が持たない。
840	見切りをつける	みきりをつける	研究中の素材に見切りをつけ、新しいものを試すことにした。
841	右に出るものが (い) ない	みぎにでるものがない	金属を研磨する技術にかけては、彼の右に出るものがない。
842	水を打ったように (静まり返る)	みずをうったようにしずまりかえる	地元チームの思わぬ敗北に、会場は水を打ったように静まり返った。
843	水を差す	みずをさす	今回の件が、両者の関係に水を差すことのないように望む。
844	店を畳む	みせをたたむ	長年営業してきた店を畳んで、田舎に引っ越すことになった。
845	道を踏み外す	みちをふみはずす	自分の人生だとは言え、道を踏み外すようなことだけはするな。
846	見ての通り	みてのとおり	見ての通り何もない田舎町ですが、住んでいる人はみんな親切です。
847	身に覚えがある	みにおぼえがある	小さな失敗を隠したといえ、身に覚えがある人も多いと思う。
848	身に染みる	みにしみる	最近になって、社会の厳しさを身にしみて感じている。
849	身につける	みにつける	ブランド品ばかり身につけている。／多くの技術を身につける。
850	身につまされる	みにつまされる	昔の同僚が働きすぎで倒れたというが、何とも身につまされる話だ。
851	身の毛がよだつ／身の毛もよだつ	みのけがよだつ	身の毛もよだつような恐ろしい話だ。
852	身の丈にあった	みのたけにあった	できないことをやるよりも、身の丈に合ったことをするべきだ。
853	身の程知らず	みのほどしらず	直接会長に意見するなど、身の程知らずな男だ。
854	耳が早い	みみがはやい	昨日のことをもう知っているなんて、相変わらず耳が早いね。
855	耳に入れる／耳に入る	みみにいれる	この情報は、課長の耳に入れておいた方がいいだろう。
856	耳につく	みみにつく	同じフレーズの繰り返しをやけに耳につく曲だ。
857	耳の穴をかつ穿じってよく聞け	みみのあなをかつぼじってよくきけ	お前ら、耳の穴をかつ穿じってよく聞け！
858	耳を疑う	みみをうたがう	彼女の発した言葉に、私は我が耳を疑った。
859	耳を貸さない	みみをかさない	性格は穏やかだが、他人の批判には耳を貸さないところがある。
860	耳を澄ます	みみをすます	耳を澄ますと虫の音が聞こえてくる。
861	耳をそばだてる	みみをそばだてる	隣の席で、私たちの会話に耳をそばだてている男がいた。
862	耳を揃えて (返す)	みみをそろえてかえす	貸した100万円、明日までに耳を揃えて返してもらおう。
863	身も蓋もない	みもふたもない	そうあっさり結論を出されては、身も蓋もない。
864	脈がある	みゃくがある	脈がありそうな相手に絞って交渉を進める。

No.	語句	読み	用例
865	見る影もない	みるかげもない	一世を風靡した芸人も、今や落ちぶれて見る影もない。
866	見るからに	みるからに	見るからに貧乏そうな学生が並んで歩いている。
867	見るに見兼ねる	みるにみかねる	あまりの不器用さを見るに見かねて、先生が手伝ってくれた。
868	身を切られる (思い) / 身を切る	みをきられるおもい	子供が犠牲になったニュースを聞いて、身を切られる思いがした。
869	身を焦がす	みをこがす	身を焦がすような恋の情熱も、今はもうなくなった。
870	身を処する	みをしょする	どう身を処するかは、政治家個人が決めることだ。
871	身を捨てる	みをすてる	身を捨てる覚悟があれば、大抵のことはやり遂げられる。
872	身を立てる	みをたてる	芸で身を立てるのは、決して楽な話ではない。
873	身を挺する	みをていする	飼い犬が身を挺して主人を守ったのだと言う。
874	身を投じる / 身を投ずる	みをとうじる	彼女は、若くして権力との闘争の道に身を投じた。
875	身を投げる	みをなげる	当時はこの橋から身を投げる人が後を絶たなかったと言う。
876	身を引く	みをひく	トラブルを避けるため、自分から身を引くことに決めた。
877	身を減ぼす	みをほろぼす	酒は身を減ぼすと、昔から言うだろうに。
878	実を結ぶ	みをむすぶ	長年の努力が実を結び、ついに新しいソフトが完成した。
879	身を寄せる	みをよせる	地震で家を失って、親戚の家に身を寄せている。
880	向かうところ敵なし	むかうところてきなし	地元チームが、向かうところ敵なしの快進撃を続けている。
881	無下に (する)	むげにする	せっかくの厚意を無下にするようなことはするな。
882	向こうに回す	むこうにまわす	前年のチャンピオンを向こうに回して、一步も引かない戦いだった。
883	向こうを張る	むこうをはる	人気アイドルの向こうを張ってデビューした。
884	虫が知らせる / 虫の知らせ	むしがしらせる	急に予定を変更して事故を免れた。きっと虫が知らせたんだろう。
885	虫酸が走る	むしずがはしる	アメリカの大統領の顔を見ると、なぜか虫酸が走る。
886	無駄足 (を踏む)	むだあしをふむ	直接本人のもとを訪ねたものの、結局は無駄足を踏む結果となった。
887	無駄口を叩く	むだぐちをたたく	無駄口を叩いている暇があったら仕事をしなさい。
888	無に帰する	むにきする	最終実験に失敗したら、すべての努力が無に帰することになる。
889	胸が熱くなる	むねがあつくなる	けなげな子供たちのドラマを見て、感動で胸が熱くなった。
890	胸に刻む / 心に刻む	むねにきざむ / こころにきざむ	あの日の感動は深く胸に刻まれている。
891	胸の空く思い (がする)	むねのすくおもいがする	高校生ゴルファーの活躍に胸のすく思いがする。
892	(胸の) 支えが下りる	むねのつかえがおりる	20年ぶりの謝罪で、ようやく胸のつかえが下りた気がした。
893	胸を痛める	むねをいためる	国民の誰もが胸を痛めた事件だった。
894	胸 (を) 躍らす / 胸を躍らせる	むねをおどらす	はじめての一人暮らしに胸を躍らせている。
895	胸を借りる	むねをかりる	相手は格上なので、胸を借りるつもりで戦います。
896	胸を焦がす	むねをこがす	あのころは、先輩に胸を焦がす日々だった。

No.	語句	読み	用例
897	胸を弾ませる	むねをはずませる	待ちに待った日とあって、胸を弾ませて出掛けて行った。
898	胸を張る	むねをはる	決勝で負けたとはいえ、世界の2位なのだから胸を張っていい。
899	胸を膨らます／胸を膨らませる	むねをふくらます	新学期になって、希望に胸を膨らませた新生が入ってきた。
900	無理難題 (を吹っ掛ける)	むりなんだいをふっかける	契約を1万件獲得せよなどとは、無理難題を吹っかけられたものだ。
901	目が利く	めがきく	李さんは目が利くので、安物を贈るわけにはいかない。
902	目が眩む	めがくらむ	彼女の転職は、金に目が眩んだとしか思えない。
903	目が据わる	めがすわる	お酒を飲んで、すっかり目が据わっている。
904	目が点になる	めがてんになる	あまりトンチンカンな質問に、目が点になってしまった。
905	目が届く	めがとどく	親の目が届く範囲で遊ばせるようにしてください。
906	目が光る／目を光らせる／目を光らす	めがひかる	多くの係員が、カンニングがないかと目を光らせている。
907	目が回る	めがまわる	仕事が多すぎて目が回る。
908	目くじらを立てる	めくじらをたてる	些細なことで目くじらを立てていては評判が下がるよ。
909	(目と) 鼻の先	めとはなのさき	会社からは距離があるが、家からは目と鼻の先だ。
910	目処がつく	めどがつく	ようやく仕事にも目処がついた。
911	目に余る	めにあまる	最近の彼の振る舞いには、目に余るものがある。
912	目に染みる	めにしみる	あのときの僕には、空の青さが目に染みた。
913	目に飛び込む	めにとびこむ	新聞を読んでいると、信じられない記事が目飛び込んできた。
914	目に留まる／目を留める	めにとまる	雑誌の中の小さな記事が、ふと目に留まった。
915	目に入る	めにはいる	台湾に来たばかりの頃は、目に入る物すべてが新しかった。
916	目に触れる	めにふれる	こんな下品な本を人の目に触れるところに置いておくな。
917	目に見える	めにみえる	ようやく日本語の進歩が目に見えるようになってきた。
918	目に物 (を) 見せる	めにものをみせる	オレを馬鹿にしている奴らに、いつか目に物を見せてやる。
919	目 (の玉) が飛び出る	めのたまがとびでる	国産の松茸ともなると、目の玉が飛び出るほどの値段がする。
920	目端が利く	めはしがきく	兄の方は目端が利くタイプではない。
921	目星をつける	めぼしをつける	警察は、すでに犯人の目星がついているようだ。
922	目も当てられない	めもあてられない	会社が倒産した上、妻子にも逃げられたのでは目も当てられない。
923	目を覆う	めをおおう	事故の現場は、目を覆うような悲惨な光景だった。
924	目を落とす	めをおとす	社長は何も言わずに手元の資料に目を落とした。
925	目を掛ける	めをかける	先生はあの子にばかりに目を掛けている。
926	目を配る	めをくばる	リーダーともなれば、様々なところに目を配らなければならない。
927	目を凝らす	めをこらす	目を凝らしてやっと読めるような大きさの文字で書いてある。
928	目を皿 (のように) にする	めをさらのようにする	目を皿にして探したが、ついに見つけることができなかった。

No.	語句	読み	用例
929	目を白黒させる	めをしろくろさせる	急な知らせに、目を白黒させている。
930	目を背ける	めをそむける	どんなに辛くとも、真実から目を背けることがあってはならない。
931	目をつける	めをつける	前から目をつけていた歌手だが、予想通りに成功している。
932	目を瞑る	めをつぶる	多少のことには目をつぶるから、とにかく結果を出してくれ。
933	目を通す	めをとおす	昨日もらった資料には、すべて目を通しました。
934	目を盗む	めをぬすむ	親の目を盗んで、いかがわしい店で働いている。
935	目を放す／目が放せない	めをはなす	短い時間でも、小さな子供からは目を放してはいけません。
936	目を細める	めをほそめる	父親が、子供の成長した姿に目を細めている。
937	目を丸くする	めをまるくする	あまりの大きさに目を丸くしている。
938	目を見張る	めをみはる	前回大会での活躍には目を見張るものがあった。
939	目を向ける	めをむける	大きな問題だけでなく小さな問題にも目を向けるべきだ。
940	面子を潰す／面子が潰れる	めんつをつぶす	それでは相手の面子を潰すことになってしまいかねない。
941	面倒を掛ける	めんどうをかける	年をとれば、いつかが子供たちに面倒をかけることになる。
942	元も子もない	もととももない	働きすぎて病気にでもなったら元も子もない。
943	(物) 思いに沈む	ものおもいにしずむ	彼はと言えば、深く思いに沈んでいるように見える。
944	物の見事に	もののみごとに	物の見事に優勝した。／実験は物の見事に失敗した。
945	文句をつける／文句のつけようがない	もんくをつける	値段に文句をつける。／どこにも文句のつけようがない。
946	門戸を開く	もんこをひらく	我が大学は、広く外国人にも門戸を開いている。
947	矢面に立つ	やおもてにたつ	推進した計画が頓挫して、批判の矢面に立つ結果となった。
948	焼き餅を焼く	やきもちをやく	お互いに焼き餅を焼いているところが幸せなんですよ。
949	自棄を起こす	やけをおこす	株式投資に失敗してヤケを起こした男の犯行だった。
950	安請け合い (をする)	やすうけあいをする	安請け合いをしてから後悔するのが、彼のいつものパターンだ。
951	厄介になる	やつかいになる	ホテルが満室なので、二三日厄介になります。
952	～やに聞く	やにきく	この件では、様々な意見が出されているやに聞いている。
953	山を掛ける／山を張る	やまをかける	テスト範囲が広いので、ある程度山を掛けるしかないと思う。
954	病みつき (になる)	やみつきになる	この味は、一度食べたら病みつきになる。
955	止むに止まれぬ	やむにやまれぬ	彼が休むのだから、よほど止むに止まれぬ事情があったのだろう。
956	ややもすると／ややもすれば	ややもすると	日本人には、ややもすると悲観的な見方に傾きがちなところがある。
957	槍玉に挙げる／槍玉に挙げられる	やりだまにあげる	マスコミは、目だつ人物だけを槍玉に挙げる傾向がある。
958	融通が利く	ゆうずうがきく	真面目なのはいいが、まったく融通が利かないのも困ったものだ。
959	行く行くは	ゆくゆくは	行く行くは、小さな料理屋でもやりたいと思っている。
960	用が足りる	ようがたりる	コンビニに行けば、大抵のことは用が足りる時代になった。

No.	語句	読み	用例
961	洋の東西を問わず	ようのとうざいをとわず	洋の東西を問わず、男は女を追いかけてばかりいる。
962	要領を得ない	ようりょうをえない	首相の答弁はまったく要領を得ないものだった。
963	用を足す	ようをたす	主人なら、隣町まで用を足しに行きました。
964	用をなさない／用をなす	ようをなさない	大きな穴があいてしまつては、ザルとしての用をなさない。
965	善かれ悪しかれ	よかれあしかれ	善かれ悪しかれ、人生というのは選択の連続なのだ。
966	欲を言う／欲を言えば	よくをいうと	欲を言う、もう少し肉の量が多くてもいい。
967	欲をかく	よくをかく	人間、欲をかくとろくなことがないものです。
968	横になる	よこになる	朝が早かったので、昨日は9時には横になった。
969	余勢を駆る	よせいをかる	連勝の余勢を駆って、さらに上位の大会に挑戦する。
970	予断を許さない	よだんをゆるさない	一時の危機は脱したが、病状はなお予断を許さない。
971	寄って集って	よってたかつて	少年がよってたかつて老人に暴行を加えている。
972	余裕を見る	よゆうをみる	2時間くらいで着くだろうが、余裕を見て3時間前に出発しよう。
973	余裕を持たせる	よゆうをもたせる	誰でも履けるように、太もも部分に余裕を持たせたデザインです。
974	よりに (も) よって	よにもよって	よりによって、テストの前日に風邪をひくとは。
975	弱音を吐く	よわねをはく	成功したいのなら、弱音を吐いたりはしないことだ。
976	弱みにつけ込む	よわみにつけこむ	医者なんて、人の弱みにつけ込んで金を稼ぐようなものだ。
977	夜を明かす	よをあかす	道に迷って、山の中で夜を明かすことになった。
978	世を渡る	よをわたる	何と言われようが、私はこうやって世を渡ってきたのだ。
979	埒が明かない	らちがあかない	毎回担当者が変わるので、いくら要求してもらちがあかない。
980	理解に苦しむ	りかいにくるしむ	彼女の説明には理解に苦しむところが多い。
981	理屈を捏ねる	りくつをこねる	理屈をこねている暇があったら、何かひとつでもやってみなさい。
982	理屈を付ける	りくつをつける	とりあえずやってしまつて、後で理屈をつけられればいいだろう。
983	リズムをとる	リズムをとる	足でリズムをとりながら、歌を歌っている。
984	良心に恥じる	りょうしんにはじる	あなたが何と言おうと、私は良心に恥じるようなことはしていない。
985	留守を預かる	るすをあずかる	社長が上海に出張するので、その留守を預かることになった。
986	例によって	れいによって	校長先生は、例によって長い長いあいさつをした。
987	歴とした	れっきとした	ブーメランはおもちゃではなく、れっきとした武器である。
988	労を惜しまない	ろうをおしまない	私は、おいしいものを食べるためなら労を惜しまない人間です。
989	呂律が回らない	ろれつがまわらない	ここには、お酒を飲み過ぎて呂律が回らない人が5人はいる。
990	論を俟たない	ろんをまたない	言語研究における科学的議論の必要性は論を俟たない。
991	(我が) 目を疑う	わがめをうたがう	請求書の金額を見て、一瞬我が目を疑った。
992	脇目も振らず	わきめもふらず	志望校に合格するため、脇目もふらずに勉強している。

No.	語句	読み	用例
993	笑いを（囃み）殺す	わらいをかみころす	その場の誰もが必死に笑いを殺していた。
994	割に合う／割に合わない	わりにあう	1日働いて1000円ではとても割りに合わない。
995	割を食う	わりをくう	今の制度では、真面目な人ほど割を食うことになる。
996	我に返る	われにかえる	派手なガッツポーズの後、ふと我に返って恥ずかしい思いがした。
997	我を忘れる	われをわすれる	我を忘れて研究に没頭している。
998	（～を）笠に着て	をかさにきて	親の権威をかさに着て、好き放題をしている。
999	（～を）出汁にする	をだしにする	自分の主張を通すために、子どもを出しにしてはいけない。
1000	～をものともせず	をものともせず	向かい風をものともせず、好記録を出した。

